ライオン誌11月号 2006年（平成18年）10月20日発行
昭和33年12月19日付第3種郵便物認可
毎月1回20日発行第49巻第5号

IN JAPAN
Official publication of Lions Clubs International

November 2006

11

THEME シカゴ国際大会展望

PICK UP 国際大会参加

ROAR 336複合地区

第49巻第5号

We Serve

CONTENTS

CSFⅡ:あなたのサポートが成功を導く

Campaign SightFirst Ⅱ:Your Support Will Spell Success

国際会長メッセージ

2006-07年度国際会長
ジミー・M・ロス
Jimmy M. Ross

私が各地のライオンズクラブや地区を訪れる時、次の二つのことを見いだすのは難しいことではありません。ライオンズが視力検査や中古眼鏡収集、青少年支援などの価値ある事業に熱心に取り組んでいること。そしてそれに大きな誇りと満足を感じているということです。その情熱を燃やし尽くせるものも、また他者の助けとなる以上の喜びをもたらし得るものもありません。ウィラ・キャザーの小説の中に端的な表現があります。「幸福は、完全で偉大な何かに没頭する時に得られるものである」と。私たちは他者に救いの手を差し伸べるという尊い行為に真の満足を見いだすのです。

直接手掛けている事業を通じて誇りや満足を感じることは簡単です。あなたの金銭奉仕によって可能となる事業に、同様の誇りを感じることの方が難かしいでしょう。

でもちょっと考えてみてください。皆さんの献金によって実現された視力ファーストの素晴らしい成果のことを。あなたの支援が世界中に大きな変化をもたらしているのです。私たちは2700万人の失明を予防し、700万人以上に白内障手術を実施して視力を回復させました。これらの事実はライオンズ・メンバー一人ひとりの中に大きな誇りとして浸透したことでしょう。

それはまた、視力ファーストⅡキャンペーン（CSFⅡ）の使命では堅固な意志となるはずです。そう、私たちライオンズは視力ファーストを通じて多くの功績をあげました。それでも我々の挑戦は

始まったばかりなのです。CSFⅡを通じて、ライオンズは数えきれないほどの人々に視力の贈り物を届け続けるのです。これを受け取るのはあなたの知り合いや、愛する人たちかもしれません。視力関連事業の恩恵は誰にも平等にもたらされます。アメリカやカナダのような先進国においても、糖尿病患者や高齢化などによる失明の脅威が実在しているからです。

15年以上前にライオンズが視力ファーストを開始して、私たちはチャンスを手に入れました。この事業は私たちがこれまでに取り組んだことがないほど遠大なものでした。ライオンズが最初のキャンペーンで献金を寄せてくれることには確信がありましたし、それによって事業を効率良く、効果的に遂行出来るはずだと信頼してもいました。

しかし私たちが漕ぎ出したのは地図のない海でした。これほど野心的なイニシアチブを発揮するための青写真はありませんでした。そしてご存じのように私たちは成功を収めたのです。それも最初に思い描いたものをはるかに超えて。この成功はライオンズの意欲に満ちたスピリット、奉仕の精神の素晴らしい証となりました。

私たちは今や、視力の保護と回復の努力における世界的な記録保持者です。私たちが最初のキャンペーンで得た基金をもう一度手に入れたならば、私たちは必ずやこの視力保護事業を継続し世界の隅々にまでも展開してゆくことが出来るでしょう。私たちはこのキャンペーンでも成功を収めるに違いありません。ライオンズが視力保護の活動を広げていかなければ、失明を未然に防ぐ機会を得ることが出来ない人々がいるのです。私たちライオンズは世界中の失明の危機にある人々にとって何よりも希望なのです。

ですから皆さん、CSFⅡを支援してください。あなたのサポートは、それがいくらであっても、失明予防や視力回復に役立つのです。それはまたあなたに、他者を助けることによってのみ得られる喜びをもたらすでしょう。

INTERNATIONAL PRE

日本公式訪問中の9月8日、ジミー・ロス国際会長ご夫妻は広島平和記念公園を訪れ、原爆死没者慰霊碑に献花を行い、亡くなった被爆者の冥福を祈った

●シカゴ国際大会展望
発祥の地シカゴへ。代議員投票で示される日本ライオンズの存在感

ボストン国際大会は日本ライオンズにとって一つのターニング・ポイントとなった。
パレードや観光を楽しむ大会から、
代議員投票で意思決定に参加する大会へ。
ボストンで兆した変化を、
大きなうねりに変えていくために今何をすべきか。
それぞれの立場で大会参加と
代議員派遣を推進するお三方に話し合って頂いた。
90周年を迎える来年のシカゴ国際大会に向け、
投票数800を目標に日本ライオンズの意識改革を訴える。

鼎談

■山田實紘（国際理事／岐阜県・美濃加茂ライオンズクラブ）
■髙橋祥治（8複合地区ガバナー協議会議長連絡会議世話人／大阪府・堺仁徳ライオンズクラブ）
■木下　務（8複合地区国際大会委員長連絡会議世話人／千葉県・船橋ライオンズクラブ）

物見遊山型参加から意識の改革を

髙橋　今年度の第1回8複合地区ガバナー協議会議長連絡会議で山田国際理事のボストン国際大会報告を伺い、日本ライオンズの大会参加にはまだ改革すべき点があると思いました。ただ参加することではなく、投票が目的だと認識を変えていかな

ければなりません。

木下　私はこの20年ほど、ＯＳＥＡＬフォーラムと国際大会に参加してきましたが、ここ3年ぐらいで変化してきたと感じています。以前は物見遊山が半分で、前半のパレードと開会式だけで帰ってしまう参加者が多かった。閉会式でもハイライトである新国際会長の就任演説の最中に団体でぞろぞろ退場していく。そんなみっともないことは無くそうと、国際大会委員長連絡会議で話し合ってきました。

山田　今までの日本の大会参加はパレード中心で、言ってみれば遊び半分だった。しかし国際理事会の大会委員会では、まず第一に投票です。大会に行ったからには、投票をして日本のライオンズのアイデンティティーを示さないと国際舞台では通用しない。

木下　昨年度の大会委員長連絡会議では、会期途中で帰るようなツアーは組まない方針を取りましたし、山田国際理事が代議員投票の意義を説かれたことで、確実に変わってきたと思います。

山田　ボストンで投票しようという呼び掛けに応えて多くの方が参加してくださり、日本はアメリカに次いで代議員投票が多かった。このボストンを第一歩として、来年のシカゴ、次のバンコクと投票者数を積み上げていくことで、一時的なムードではなく、日本のライオンズのスタンスを変えていくことになります。

髙橋　ただ、山田理事の報告ではボストンでも現職のガバナーが投票していない地区、参加さえしていない地区もあったというお話でした。その辺りの意識を変えていかなければならないと思います。

代議員派遣の意義とは何か

山田　国際大会に参加して何になるんだ、という声を聞くことがあります。例えば国際会費の値上げの案件が出ると、国際理事会で話し合い採決を行いますが、最終的には国際大会の投票で決まります。クラブにとって身近な問題を変えていくのが投票だと理解して頂きたい。クラブの権利であり義務でもある投票権を行使しない日本のライオンズは、本当にライオニズムを分かっているのかということになります。

木下　何事も国際理事会で決まると思っているメンバーが多いですね。山田理事のおっしゃる通り、自分たちの投票で国際協会が動いていくということを分かっていない。

山田　ボストンでは6項目の会則改正案が可決しました。その重要な投票に日本のクラブの４００票がし

っかり投じられたことで、日本は動き出したということが世界のライオンズに示されました。

髙橋 第2副会長の選挙では2人の候補者が立って票が割れる中、日本が支持したアル・ブランデル候補が3分の2の得票で当選した。世界の中で日本の400票には大きな存在感がありました。更に投票率を上げていけば、日本ライオンズの流儀で国際協会を変えていくことも可能だと思います。

山田 投票を増やすポイントの一つが、代議員派遣費用の問題だと思います。「標準版クラブ会則」第9条1項に、クラブは代議員を派遣するための経費を支払う権限と能力を持つべきだと書いてありますが、皆さん案外読んでいないんですね。旅費全額というわけにはいかないでしょうが、半額を補助するぐらいのことはするべきです。そうした補助が出れば行かざるを得ないし、責任を持って投票しなければならない。全体のモチベーションが上がると思います。

髙橋 残念ながら会員数が減少していく中で、大会参加の助成までは出せないというクラブが多くなっているのも事実です。そんな中でクラブの義務を果たしていくためには、派遣体勢を整えなければならない。ガバナーは公式訪問の際に、予算の中で大会助成金0円というクラブには指導する必要があります。

木下 国際大会に参加する人はだいたい決まっていますね。毎回同じ人となると、補助が出しにくい面もあります。

髙橋 確かに同じ顔ぶれになりがちですね。しかしクラブが派遣費用を補助することで、より多くの会員が参加出来る。もっと若い人に参加してほしいですね。ただ大会を見に行くのではなく、その意義を理解して行ってほしい。それが若いリーダーの輩出にもつながると思います。

投票率アップに向けた方策とは

山田 前回ボストン大会の前に、次期クラブ会長に代議員として参加してほしいと呼び掛けました。閉会式で地区ガバナー・エレクトと共に新国際会長の就任演説を聞き、その感動を共有して、同じ気持ちで新年度のスタートが切れる。これまではガバナーを通じて各クラブに届けられていた。これからは国際会長の言葉をクラブ会長から直接聞き、それを伝えることで、メンバー一人ひとりにより浸透するし、情熱も伝わります。会長は毎年交代しますから、先程の費用補助の問題でも平等になると思います。次期の会長だけでなく、リジョ

ライオン 山田實紘

ライオン 髙橋祥治

閉会式のハイライトは、国際会長の就任式と就任演説

ン・チェアパーソン、ゾーン・チェアパーソンの就任予定者も当然参加すべきです。

木下　そうした場合、単独で参加するのは嫌だという声が出るかもしれません。かといってグループで参加すると、代議員でない参加者につられて投票を棄権しかねない。

髙橋　各地区で、現職ガバナー、ガバナー・エレクト、そして次期のリジョン・チェアパーソン、ゾーン・チェアパーソン、クラブ会長の予定者が一つのチームとして大会に参加するような形でツアーを構成するというのが、私の考えです。

山田　そうなれば必ず投票するし、帰ってからも大会でこんな話を聞いて来たんだと直に伝えられますから、地区全体のモチベーションが上がっていくと思いますよ。

髙橋　そのためにも、今年度の議長連絡会議の世話人として、投票と閉会式に必ず参加するための方策を取るよう国際大会委員長連絡会議にお願いしました。今まで旅行業者に任せきりになっていた部分もあったと思いますが、まずそこを変えなければならない。今日（9月20日）の第2回会議に出席して、いい方向へ向かっていると手応えを感じています。

木下　まず、各複合地区で国際大会参加ツアーを企画する公認コーディネーター（公認旅行業者）に対して、開会式から投票、閉会式までの公式スケジュールに参加出来る旅程を組むよう徹底させます。もし大会の全日程に参加するのが難しいのであれば、開会式とパレードはいいから投票と閉会式だけは必ず出ると、それぐらいの気持ちで臨んでほしい。他にも、投票を完了した代議員には日本独自の完了証やピンを発行するなど、投票率を高める方法も検討しています。

髙橋　完了証はいいアイデアですね。代議員はクラブを代表して投票するわけですから、報告する義務がありますよ。

木下　来年シカゴ大会の各複合地区公認ツアーは、確実に投票し、閉会式に最後まで出席可能な日程が組まれるはずです。問題は、個人やクラブ単位などの小グループで個々に参加するケースです。年々増えていますが、大会スケジュールよりも、観光や料金の安さばかり重視する傾向が強いように見受けられる。これに対してどのように指導していくかが課題です。

ライオン木下　務

山田　まずは地区ガバナーが大会参加の登録数を把握する必要がありますね。今は各地区の参加者数さえ正確に把握出来ていない状況ですから。

髙橋　うちの地区（335‐B）では、参加者リストを作成しています。代議員かどうか、公認ツアーのどのコースで参加するか、あるいは個人参加かという所まで、各クラブから準地区に報告してもらっています。335複合地区ではどの地区でもやっていますよ。

木下　今年は統一の書式で各クラブから準地区へ報告書を提出してもらって、参加者を確実に把握出来る

ようにしたいと考えています。

高橋　そうしたリストがあれば、代議員権を放棄しているクラブに対してガバナーが指導出来ますね。

木下　各地区のガバナーの皆さんには、公式訪問やキャビネット会議で代議員投票の重要性について強く訴えてほしいですね。

ライオンズ発祥の地シカゴで代議員投票800を

山田　次の国際大会は第90回を迎え、メルビン・ジョーンズによるライオンズクラブ創設の地シカゴで開催されます。加えて、女性の入会が認められてから20年という節目にも当たります。記念すべきビッグ・イベントとなりますから、全世界から大勢の参加者が集まるでしょう。シカゴ大会では公式オプショナル・ツアーとして、国際本部見学ツアーが設けられます。本部のあるオークブルックはシカゴ中心部からバスで約30分の所なので、総会終了後の午後の３時間程度で見学することが出来ます。

木下　国際本部へはこれまで３回行きましたが、自分のクラブが提出した書類がきちんと保管されているのを見て感激しました。メルビン・ジョーンズの部屋では机に触らせてもらい、記念撮影もしてきました。いい経験でした。

山田　国際会長の部屋で写真を撮ったりね。いつもは大会期間中はスタッフが出払っていて、本部には少数しか残っていませんが、来年は会場と本部とを行き来することが出来る。会期中に本部が見学出来る貴重な機会です。

木下　日本からも大勢の参加者がシカゴへ行き、投票数も伸びると期待しています。

高橋　ボストンが400でしたから、シカゴで600、バンコクで800と、200ずつ伸ばしていきたいですね。

山田　私の目標はシカゴ800人なんです。これには理由があって、アメリカの代議員投票が2千数百票ありますから、日本が千票近いところまで持っていければ、東洋・東南アジア地域と西南アジア・アフリカ地域の票とを合わせてアメリカに対抗出来るんです。日本の感覚を国際協会に反映させていくには、どうしても800以上を目指したい。

高橋　そうなれば日本の発言力も大きくなりますね。

木下　分かりました。代議員投票800を目標に、大会委員長連絡会議では先手必勝で、早目に準備を進めていきたいと思います。

山田　ボストンを機に日本ライオンズはようやく目覚め始めました。この流れを止めることのないように、シカゴへ大勢の代議員を派遣しましょう。

代議員投票を行うには、投票前日までに資格証明手続きが必要

第90回ライオンズクラブ国際大会主要日程（予定）

アメリカ・イリノイ州シカゴ
2007年7月2日～6日

日時	内容
7月2日（月）	
9:00～17:00	大会サービス・センター
7月3日（火）	
9:00～17:00	大会サービス・センター
10:00～13:00	第1回総会（開会式）
18:30～19:30	インターナショナル・ショー
7月4日（水）	
9:00～17:00	大会サービス・センター
9:30～	インターナショナル・パレード
7月5日（木）	
9:00～17:00	大会サービス・センター
10:00～12:00	第2回総会
12:30～14:30	MJF昼食会
7月6日（金）	
7:00～10:00	投票／大会サービス・センター
9:30～12:30	第3回総会（閉会式）

本部ホテル／シェラトン・シカゴ・ホテル＆タワーズ

国際理事だより

■国際理事
伏見龍
（神奈川県・横浜みなとマリン）

議論白熱した北京理事会
ライオンズ近代化の礎を

10月3日から秋季国際理事会が北京で開催された。

開幕に先立ち、ジミー・ロス国際会長は「この理事会は大変重要な会議であり、盛りだくさんの議題を手際よく処理して成果を上げていきたい」とあいさつされ、また、「ライオンズは外部から、信頼出来る、しっかりした組織であるとの評価があるが、これからなお一層の努力をしないと、その期待を裏切ることになる」とも言われた。

今回の理事会には、大きな期待を抱いて臨んだ。以前から議論されてきたライオンズのイメージ・アップに関して、紋章やキャッチ・フレーズなど「ライオンズの近代化のブランド・イメージ」作りに具体的に着手し、世界的なプロフェッショナルに依頼して、来年3月にはそのグランドデザインの全貌が報告されることとなった。

また、2017年の100周年に向けて専門委員会を発足させ、画期的な企画で全世界中に大々的に発信する。ライオンズの将来の位置づけを確立する大きなインパクトを与えることになり、またライオンズの組織のさまざまな分野も見直し、これを機に、会員も140万と言わず、150万人へと夢は膨らむ。

会議では、地区ガバナーの責任についてかなりの時間が費やされた。今まで、公式訪問などが地区ガバナーの仕事として重要視されてきた。が、それらは副地区ガバナーの仕事として任せ、ガバナーは地区が効率よく運営され、協会の現在及び将来のニーズを満たすことが出来るよう、会員増強やエクステンションなどの組織の拡大と将来を担うリーダーの教育・訓練・クラブ会長のリーダーシップ等の養成を専門事業にし、一般的な業務は副地区ガバナーに任せるようにしたいという意見が出ている。それらを含めライオンズの将来展望の議題が数多く取り上げられた。

また各種の助成金制度が検討、決議された。例えば、会員増強プログラムでは、地区の女性会員増強プログラムに対する補助金として2千ドル。またPR関係では予算65万ドルが組まれ、複合地区での事業には、上限2万ドル、地区には1500ドルの補助金が申請順に受け付けられることになる。

また、会員プログラムについても、家族会員を1地区で30人以上増加させるとか、女性だけのクラブを一つ以上結成することにより、助成金やアワードも用意される。

特に会員増強やエクステンションに力点を置いたプログラムが多いが、学内クラブや新世紀クラブ、レオクラブの活性化、また他にも人道的奉仕活動（ボランティアの会）や社交、ビジネス、専門の各分野との交流を可能とする「オンライン会員」「オンライン・リソース・センター構想」の新設なども目を引く。

昨年度末に国際本部事務総長が解任され、今期に入って用品部部長が業績不振を理由に解任されたように、ロス会長は協会運営の在り方や、人事についても大幅な改善をしている。今回の理事会は、昨年の未解決事項などにかなり足早に決断を下し、予算上の問題も厳しい取り扱いをしており、徹底的に無駄が省かれた。

国際大会参加

国際協会の意思決定に参画し新国際会長就任演説を聴く最高の機会

菊池清二（ライオン誌日本語版編集長／青森県・弘前津軽ライオンズクラブ）

すべては2005年10月9日、仙台から始まった。

この日、第44回東洋・東南アジア・ライオンズ・フォーラムの協賛企画として開催されたミニ・フォーラム「明日のライオンズを考える」（ライオン誌日本語版委員会主催）には、全国から約250人の会員が参加、五つのテーマでパネリストと参加者による活発な議論が展開された。しかも提言のうちいくつかは、言いっぱなしで終わらず、その後、関係者により実際に行動へと移された。

その一つが、国際大会参加の在り方に関する議論だった。

キーワードは「投票」

仙台におけるミニ・フォーラムの後、パネリストであった山田實紘国際理事や高橋義太郎332複合地区議長らが、330～337複合地区のガバナー協議会議長連絡会議や国際大会委員長連絡会議等で、日本ライオンズの国際大会参加態勢について、具体的提言を交え改革の必要性を訴え続け、少しずつ波紋を広げていった。

ライオン誌でも、ミニ・フォーラムの主催者として、この話題を継続的に採り上げていくことを決め、2006年2月号で「国際大会参加」をテーマとして記事を掲載した。また同号「国際理事だより」では、11月の秋季国際理事会から帰国された山田国際理事が「国際大会参加、投票により、日本ライオンズの存在感を知らしめよう」と呼び掛けた。

山田理事は原稿の中で、国際理事会の国際大会委員長を務めるジョセフ・ロブレスキー元国際会長から、「日本のライオンズは大会には多く参加するものの、なぜ民主主義の基本行動である投票権を放棄するのか」と問われ、大きなショックを受けた、と述べられていた。

更に、基本的行動を放棄する日本ライオンズは、国際協会の中で存在感がゼロに等しい、と感じられたという。ここから、山田理事を中心にボストン国際大会参加へ向けての行動が始まった。

キーワードは「投票」である。

かつては、毎年順調に会員数を増やし、また解散クラブが一つもない国として高い評価を得、また最近では視力ファーストを始め、LCIFに対する多大な貢献に対して感謝されている日本ライオンズ。が、こと国際大会に関しては別である。日本ライオンズの投票率の低さは周知の事実となり、国際協会からも厳しい目が向けられている。

そこで、国際大会で代議員権を行使し、国際協会の意思決定に参画していこう。それが、一つの大きな共通目標となった。

仙台で開催されたミニ・フォーラム「明日のライオンズを考える」

最高議決機関としての国際大会

国際大会とは、国際会長・国際第1副会長の信任投票や、国際第2副会長・国際理事の選挙を行い、なおかつ国際会則改正案の賛否を問う、ライオンズクラブ国際協会の最高議決機関である。つまり代議員として出席し、実際に投票を行うことは会員の最高の誉れであり、同時に重大な責任を伴うものである。

このように重大な国際大会ゆえ、山田理事は、「地区ガバナー・エレクトのみならず、次期のリジョン・チェアパーソン、ゾーン・チェアパーソン、クラブ会長は必ず出席すべきだろう。課せられた1年間の役割をスタートさせる瞬間であり、新国際会長の方針を直接聞くことは新ガバナーから新クラブ会長まで、全員が一丸となってやる気を奮い起こす絶好の機会となる。また、日本ライオンズここにありと、その存在感を世界に知らしめることになり、それが日本のクラブの活性化へつながるという相乗効果も期待出来る」とし、次期クラブ会長に代議員として投票し、閉会式へ出席するよう訴えた。

ミニ・フォーラムでの問題提起に始まり、各種会議での呼び掛け、ライオン誌の特集などが相まって、2006年ボストン国際大会での代議員投票に向け、全国的な盛り上がりが期待された。結果は当初の目標には届かなかったものの、代議員登録数では2005年の香港国際大会を上回り、投票率でも改善が見られた。

香港大会では登録数が約400人でほぼ同数ながら、投票率100%の韓国と、1割が棄権した日本が比べられた。が、ボストンでは、日本は韓国（195人）の倍以上となる427人が登録。投票率も93%と、ある程度の成果を収めることが出来た。更に今回は激しい国際第2副会長選挙が展開され、そのキャスティングボードを日本が握ることになった。そのため、実際の数字以上に日本の投票数が注目されることになり、協会からも一定の評価を得た。

そこで、この流れを継続し、更に加速させるために、ライオン誌では今年度も国際大会参加キャンペーン

を行うことを決めた。そのためには、ボストン国際大会の検証が必要だと思い、山田国際理事が所属する334複合地区の協力を得て、今回、次期クラブ会長として大会に参加された方たちにリポートをお願いした。

感動と気分の高揚を覚えた新国際会長就任演説

まず、元会長、前会長、及び今年度幹事の３人と共に参加した三重県・松阪中央ライオンズクラブの田中英男会長は、

「山田国際理事から方向性と重要項目を示して頂き、会員としての責任を果たすべくボストン大会に臨み、代議員投票３人を達成することが出来ました。閉会式では新国際会長の就任演説を生で拝聴し、心の底から吐露される訴えが身に染み、特に会員増強については『やらねばならないんだ。当為の問題だ』と心に誓いました。幸い、全会員の前向きな熱情も作用し、８月には早速、３人の新会員を迎え、意欲充実の状況にあります」

と、述べている。

この田中会長を始め、クラブ会長たちの多くは、山田理事の呼び掛けに応じて大会へ参加し、感動を共有出来たという意見を寄せてくれた。

「代議員資格審査を始め、投票用紙の引き換え等、地区年次大会のそれとは比較にならない厳格な手続きを経て、ライオンズ会員としての大役を果たすことが出来ました。

ジミー・ロス新会長の就任演説は大スター並み、マイク片手にステージをいっぱいに使っての心地良い英語のイントネーションとパフォーマンスで、アピールは絶大、見とれてしまいました」（岐阜県・高山岳城ライオンズクラブ／池田三太郎会長）

「新国際会長就任演説における力強いスピーチを聴き、感動と気分の高揚をこの身に感じ取ってきました」（三重県・津西ライオンズクラブ／山本正会長）

その一方、参加費用など、現実問題として難しい面があることも指摘された。クラブ会則標準版第９条１項には「国際協会は大会参加クラブによって方向づけられるのであるから、本クラブは国際協会の諸問題に対して発言するため、各国際年次大会に代議員を派遣するために必要な経費を支払う権限および能力を持たなければならない」とあり、国際大会参加費の一部でも、クラブ負担とすることが望ましいのだが、財政上厳しいクラブもあろう。

が、そんな中、津西ライオンズクラブの山本会長は、

「我がクラブでは会長、幹事の派遣をクラブの内規で定め、派遣費用の一部（３分の１程度）を助成するこ

カウボーイ・ハットを被り、ステージ上を動きながら就任演説を行ったジミー・ロス国際会長

とも承認されました。この結果、次のシカゴ国際大会にも次期会長、幹事が参加出来得る路線が敷かれ、喜ばしく思うと共に安堵しています」
と、積極的な方策を講じたことを報告してくれ、ご自身、来年のシカゴ大会にもぜひ参加したい、と付記されていた。

シカゴ国際大会へつなげるために

次回に向けて、具体的な提言を寄せられた会長も多かった。その一人、愛知県・名古屋イースト・ライオンズクラブの太田勇造会長は、
「国際大会での投票は、私のように英語が話せない者にとっては大変な苦痛です。しかし当日、日本語の話せる受付があることを知り、スムーズに投票用紙を頂くことが出来ました、投票用紙は日本語で書いてあり、日本人の役員の方が親切に教えてくださり、誠に簡単に投票出来ました。この辺りを事前にPRして頂けるとありがたいと思いました」
と、指摘された。確かに、初めての参加者でも安心して投票出来るような配慮も含め、まだまだPRが不足していたかもしれない。また、
「同時通訳の端末が少なかった。投票方法が実に分かりにくかった」（三重県・名張ライオンズクラブ／中村民夫会長）
「電子化が進んでいる時代に、投票方法が前近代的で、ずいぶん遅れた手法のように思えて残念。高額な旅行代金を払って、指定旅行代理店に申し込まなければならない運営の在り方に疑問」（三重県・神都ライオンズクラブ／三木勲会長）
などの声も聞かれた。
三木会長は続けて、
「日本の国際理事が活発に意見を述べられ活躍されていることに呼応する形で、日本のライオンズも国際大会について少し考えを改めると共に、理事を通じて我々の要望、意見を提案していく必要を感じました」
と語り、今回の国際大会参加に関する意識改革が、クラブ会長レベルでは確実に浸透しつつあることをうかがわせた。これが更にクラブ全体にも広がっていくと、大きな流れになるのだろうが……。
クラブは会員25人に1人、それ以上は端数13人ごとに1人の代議員と補欠を国際大会に派遣することが出来る。ちなみに、２００６年7月現在の会員数から代議員数を算出してみると、国際役員も含め日本全体では約５７００人となる。
中には10人以上の代議員を持つクラブも数クラブあるが、会員数の減少により、代議員1人というクラブがほとんどだ。つまり、日本のライオンズとして代議員数を増やすには、代議員を送り出すクラブ数を増やす必要がある。
ボストン国際大会に代議員を派遣したクラブは約３２０クラブと、全体の10%にも満たなかった。山田理事は、次期クラブ会長コースの設置を提案されていたが、代議員権を行使することもクラブ会長としての責任の一つだろうし、代議員数を増やすためにもいいアイデアだと思う。
現在、来年のシカゴ国際大会に向け各複合地区共、旅程の検討に入っていることだろう。今年蒔かれた意識改革のタネが、来年につながり、代議員投票がボストンの倍の８００人に、更に1千人の大台に届くことを期待したい。

閉会式の中でエレクトのリボンをはずし、晴れて地区ガバナーに就任する喜びの瞬間

ライオンズ ニュースカセット

NEWS CASSETTE

334‐D地区で始まったライオンズクエスト・プログラム

9月16、17日の両日、富山市の富山県民会館で、334‐D地区（富山・石川・福井／伊勢豊彦地区ガバナー）によるライオンズクエスト・プログラムのワークショップが開催された。同地区では昨年度から、キャビネットの他、富山県・小杉ライオンズクラブ、富山昭和ライオンズクラブが相前後してプログラム導入に乗り出し、今年度に入って、それらが一つになりLCIF四大交付金（2万5千ドル）を得て活動を展開している。そうしたベースがあるため事業は非常にスムーズに進み、富山市では教育委員会やPTA連合会も積極的に協力してくれ、既に全校での導入を希望している学校もある。地区では今後、石川県や福井県でも体験会やワークショップを実施し、2年間の事業計画の中で、出来るだけ多くの教員がワークショップを受講し、全校型のモデル校を各県に1校ずつ作りたいとしている。

家族会員の証明手続き期限は11月末

ボストン国際大会で可決された家族会費制度が2007年1月1日スタートする。この制度を利用するには、家族会員の証明書式を11月30日必着で国際協会に提出しなければならない。適用を受けるのは、同一クラブに在籍する同居家族（夫婦、親子、兄弟、親戚）の会員で、1人目が規定の国際会費を納め、2人目から最高5人目までは国際会費が半額となる。証明手続きは、国際協会のマンスリー報告システムWMMRにあるオンライン書式か、家族証明書式を郵送して行う。家族会員の説明や、家族証明書式は公式ウェブサイト（www.lionsclubs.org）の「会員プログラム」内「家族会員」のページを参照。

国際大会の参加登録締切は3段階

国際大会の参加登録は早期、普通、後期の締切により料金が異なる。2007年シカゴ国際大会の登録締切と登録料は左記の通り。

■早期（06年7月5日～12月31日）大人100ドル／子ども10ドル

■普通（07年1月1日～3月31日）大人115ドル／子ども20ドル

■後期（07年4月1日以降）大人130ドル／子ども30ドル

●カーター元大統領が出演するCSFⅡ公共広告

LCIFは9月8日、ジミー・カーター元アメリカ大統領が出演する視力ファーストⅡキャンペーン（CSFⅡ）の公共広告（PSA）を発表。全米のケーブルテレビ会社などに配信した。2002年にノーベル平和賞を受賞したカーター元大統領は在籍53年になるライオンズクラブ会員で、地区ガバナーとしても活躍した。現在、代表を務めるNGOカーター・センターは、LCIFと共同で予防可能な失明の撲滅に取り組んでいる。公共広告では次のようなメッセージで、ライオンズの失明防止の戦いに支援を呼び掛けている。

「こんにちは、ジミー・カーターです。専門家は今後15年間で失明者の数は倍増し、7500万人に上ると予測しています。しかし、失明の80％は予防することが可能なのです。

ライオンズクラブ国際協会は長年にわたって、失明予防のために戦ってきました。私はその戦いぶりをよく知っています。なぜなら、私自身がライオンだからです。1990年以降、ライオンズクラブは視力ファースト・プ

Knights of the Blind
—盲人のための騎士たれ—

視力ファーストⅡ キャンペーン 最新情報

ホームページ（HP）を利用して視力ファーストとCSFⅡの情報を発信すると共に、協賛広告で献金の資金獲得をする試みが、337複合地区で行われている。

●ホームページでPRと資金調達を

2005年7月、337複合地区のCSFⅡコーディネーターに就任したライオン小池祐一（宮崎県・延岡五ケ瀬ライオンズクラブ）は、CSFⅡに関する情報が少ないことから専用HPの必要性を感じた。そこで、所属クラブ内でITに精通したライオン佐藤一也、ライオン川口裕司とプロジェクト・チームを結成。単に情報発信のツールとしてだけでなく、会員並びに一般の企業にキャンペーンに参加してもらうために、広告収入を献金に回すことを計画した。そこでまず、HPにライオンズとLCIFの名称を使用することと有料広告掲載の可否について、336、337複合地区担当の澁田繁晴ナショナル・コーディネーターに相談。更に田辺憲雄LCIF資金開発課課長の助言を得ながら、LCIFからライオンズの品位を汚すことのない広告掲載などを条件に許可を受け、最終的に地区ガバナーの了承を得た。

こうした手続きを経て、澁田ナショナル・コーディネーターを総括責任者に、05年12月21日にCSFⅡ公式サイトとして開設された。

http://homepage2.nifty.com/csf
（「CSF LCIF」でキーワード検索すると簡単にアクセス出来る）

●広告料が献金と運営費に

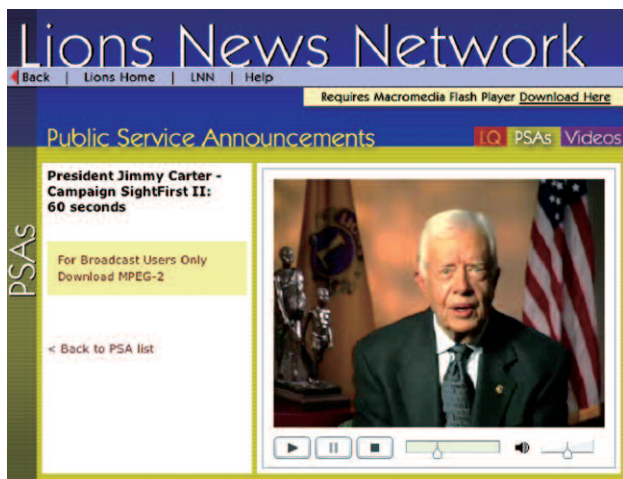
このHPは、小池祐一セクター・コーディネーターが原稿作成、ライオン佐藤が制作、ライオン川口が広告渉外を担当。視力ファースト事業の歴史やこれまでの実績、世界の失明の現状に関する情報の他、モデルクラブ一覧、地区レベル、日本レベルの献金状況の報告も掲載している。

広告掲載についてはまだ試験運用中だが、現在のところ、延岡五ケ瀬ライオンズクラブの10人と、地区内他クラブ5人の会員企業計15社と、一般企業4社の広告を掲載中だ。広告料は18,000円と30,000円の2種類で、それぞれCSFⅡに100ドル献金、200ドル献金を行い、差額をサーバー使用料、制作費、通信費など運営費に充てている。会員の場合は個人献金としてカウントされる。06年1月から6月までの6カ月間で広告収入は400,477円、CSFⅡ献金は304,200円に上った。

「CSFⅡの理念、意義と重要性を広く理解して頂くための魅力的なHP作りが最大の課題。現在は赤字決算だが、広告の意義が理解されれば安定的な運用は十分可能なはず」とライオン小池。

今年度、地区IT副委員長を務めるライオン佐藤は、「インターネットを利用した広報活動は、これから最も重要になると考える。ライオンズの品位を汚すことのない広告で企業の協賛を得ることは、ライオンズの枠を超えた活動として、取り組むべきだろう」と、今後のPRの可能性を強調している。

ログラムを通じて2400万人の人々を失明の危機から救いました。今、ライオンズは世界中で失明予防プログラムを展開し、3700万以上の人々の視力を守るため、CSFⅡに乗り出しました。視力は人生を豊かなものにします。私たちはあなたの支援を必要としています。地元のライオンズクラブに協力してください。CSFⅡで視力を守りましょう」

カーター元大統領の公共広告（英語のみ）は、公式ウェブサイトに掲載されており、ダウンロードも出来る。

CSFⅡ公共広告を見るには、公式サイト（www.lionsclubs.org）のトップページにあるバナーから「Lions News Network」に入り「PSAs」を選択

SightFirst Update

あなたにとって最大の脅威は？

失明は発展途上国だけの問題ではない。先進国でも糖尿性眼病や緑内障などで視力を失う危険性がある。視力ファーストのライオンズ・アイヘルス・プログラムは、先進国で目の健康に関する情報の普及に取り組んでいる。

誰でも死ぬことは怖い。人前で話すことに恐怖心を覚える人もいる。では、最も脅威だと感じることは何だろうか？　視力を失うことも、その一つであるに違いない。

◆

成人10人のうち7人が、自らの身に起こり得ることの中で最も脅威だと感じていることは、目が見えなくなること……。

LCIFとアメリカ眼科協会が共同で行った調査の結果だ。

この調査は2005年11月から今年2月にかけて成人2400人を対象にアメリカで行われた。糖尿病性眼病や緑内障などに関する基本的な知識さえ持っていない人は多いが、90年に実施した同様の調査と比較すると、アメリカ国内での眼病に関する知識は向上している。

●10人中9人が緑内障について耳にしたことがある。そのうち90％は緑内障で失明に至る危険性を、67％はそれが予防出来ることを知っている。しかし、緑内障の初期には何の症状も見られないことを知る人は8％だった。

●調査対象者の半数は、糖尿病性網膜症のような糖尿病性眼病について知っている。そのうち、92％は糖尿病によって失明する場合があることを、69％がその失明は予防することが出来ると認識している。しかし糖尿病が引き起こす失明には通常、初期の兆候がないと知る人は11％だった。

●全体の52％の人が加齢黄斑変性（AMD）について知っている。そのうち、46％はビタミンと亜鉛を取ることが予防に有効だということ、41％がAMDは遺伝性が高いことを認識している。

●26％の人が昨年テレビでアイヘルスや眼病に関するリポートを視聴したと言い、22％は全く見聞きしなかったと回答した。18％は医療機関でアイヘルスや眼病に関して聞かされていて、雑誌などで関連の記事を目にしている。

この調査結果は、視力ファースト・プログラムの一つで、先進諸国で眼病に対する認識を向上させ失明を防止するライオンズ・アイヘルス・プログラム（LEHP）に生かされる。LEHPはこれまで、アメリカ、日本、イギリス、カナダ、オーストラリアとトルコで実施されている。

アメリカ国内のLEHPで使用されているCD-ROM教材

LCIF Update

LCIFに関する驚くべき10の事実

ライオンズ会員の多くは、LCIFが国際協会の交付金拠出部門として献金を受け付け、人道的奉仕事業のために交付金を拠出していることを知っている。しかしLCIFのあまり知られていない一面を知れば、驚きまた嬉しく思うことだろう。

1　子ども第一：何百件もの交付金が毎年児童及び青少年のために拠出され、ライオンズが学校や孤児院、職業訓練センターの建築や備品を購入するのに使われる。ライオンズクエストにより600万人もの青少年がライフスキル教育を受けた。世界保健機関（WHO）とパートナーシップを組み、世界中に30の小児視力センターを作った。

2　会費0円：会費による収入はなく、ライオンズからの献金と、前者に比べれば少額ではあるが協力団体や財団からの寄付から成る。

3　災害発生時：自然災害発生後、地区ガバナーの申請から一両日中に1万ドル以下の緊急援助交付金を拠出する。この迅速な対応により、被災地で食料や水、医薬品などの必需品の配布を行うことが出来る。

4　20ドル：20ドルで白内障の手術を行う。このわずかな金額で発展途上国で人々は視力と充足を取り戻せる。

5　運営費には使わない：献金は全額交付金として活用される。LCIFの運営費は投資から得た収入のみ。

6　世界各地で：交付金の大部分は発展途上国で利用されるが、先進国への交付も少なくはない。

7　革新：革新的・合理的な技術を活用する。トルコの地震被災者支援には組み立て可能な船便用コンテナを利用。フランスでは視覚障害者が10メートル先の物を認識出来る、レーザーを使った電子杖に資金拠出。カナダでは図書館と音声図書センターとのネットワークのデジタル化を支援した。

8　パートナーシップ：WHO、カーター・センター、スペシャルオリンピックスなどとパートナーシップを結び、人道的奉仕活動を広げている。

9　ネット活用：ウェブサイト（www.lcif.org）で最新ニュース、申請書、承認されたプログラムなどを入手出来る。

10　メルビン・ジョーンズの誇り：最初のLCIF交付金は1973年にアメリカ・サウスダコタ州で発生した洪水被災者支援5千ドル。まだ視力ファーストのような主幹を成す計画はなかった頃。が、ライオンズの援助により、LCIFは数年のうちに、ライオンズの奉仕活動に対する新たな挑戦をサポートする堅固な財団となった。

新結成クラブ

新潟県・糸魚川▼結成順位／3632▼9月16日結成▼松木公久会長▼事務局／糸魚川市寺町2-8-16（〒941-8601）TEL025-552-1225▼スポンサー／能生

神奈川県・小田原報徳▼結成順位／3633▼9月16日結成▼小宮伸行会長▼事務局／小田原市東町4-9-25 社会福祉法人小田原支援センター内（〒250-0003）TEL0465-32-8875▼スポンサー／小田原

国際大会開催予定

2007年：アメリカ・イリノイ州シカゴ／7月2日〜6日
08年：タイ・バンコク／6月23日〜27日
09年：アメリカ・ミネソタ州ミネアポリス／7月6日〜10日
10年：オーストラリア・シドニー／6月28日〜7月2日
11年：アメリカ・ワシントン州シアトル／7月4日〜8日

会議録 9月

主な議題だけをまとめました

複合地区ガバナー協議会議長連絡会議

第3回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議は9月1日、札幌・川甚本店で開催され、①ロス国際会長公式訪問、②LCIFセミナー、③アマラスリヤ第1副会長の来日予定、④拠出金取り扱いについての会則改正に関する333複合地区提案、⑤第51回OSEALフォーラムのホストについて336複合地区提案、⑥薬物乱用防止全国大会に関する330、333複合地区共同提案、⑦福井正憲元国際理事の国際第2副会長立候補、⑧CSFⅡからのお願いについて協議した。

②は10月11日（横浜市／330〜333）、13日（名古屋市／334〜337）。

③は11月11〜16日。

⑤は2012年の日本開催のフォーラムのホストを336複合地区が希望。

⑧は12月までに各クラブでCSFⅡ例会を開催されたい。

複合地区YE委員長連絡会議

第1回複合地区YE委員長連絡会議は9月5日、日本ライオンズ連絡事務所で開催され、①世話人互選、②複合地区YE委員長の手引き、③活動計画、④海外通信窓口担当地区の確認と業務内容、⑤各地区旅行代理店の確認と業務内容、⑥前年度の申し送り事項、⑦05年度YE委員長連絡会議収支会計報告、⑧06年度YE書籍頒布、⑨冬期交換、⑩その他について協議した。

①は世話人に桜井照保委員長(334)、大澤勝雄委員長(331)、副世話人に山根健委員長(336)を互選。

日本ライオンズ連絡事務所管理委員会

第1回日本ライオンズ連絡事務所管理委員会は9月6日、日本ライオンズ連絡事務所で開催され、①連絡事務所管理委員会規定、②委員長、副委員長の互選と分担、③前年度からの引き継ぎ、④引き継ぎ事項の検討、⑤06年度収支予算案、⑥報告・確認事項について協議した。

②は委員長に内田清一委員(335)、副委員長に廣瀬恒彦委員(330)、松本勤委員(336)。

ライオン誌日本語版委員会

第2回ライオン誌日本語版委員会は9月5日、ライオン誌事務所で開催され、①05年度会計監査報告、②事務所運営状況、③06年度ライオン誌日本語版編集長計画(案)、④9月号出来、⑤11月号以降台割(案)と主要記事予定、⑥『ライオン』誌ウェブマガジン、⑦国際協会公式ウェブサイト更新状況、⑧オンライン報告システムServannA、⑨創刊50周年記念事業、⑩その他について協議した。

⑩はモニターの委嘱、視覚教材の開発、家族会員の会費に関する改正、各種アンケート。

複合地区会則委員長連絡会議

第1回複合地区会則委員長連絡会議は9月11日、日本ライオンズ連絡事務所で開催され、①世話人、副世話人の互選、②06年会則改正の確認、③06年ボストン国際理事会決議の確認、④『ライオンズ必携』、『役員必携』制作の検討、⑤複合地区ガバナー協議会構成員の互選方法、⑥拠出金取り扱いに関する会則改正について333複合地区からの提案、⑦その他について協議した。

①は世話人に西原亨委員長(335、336)、副世話人に山本孜委員長(335)を互選。

⑦はリジョン・チェアパーソンの設置について。

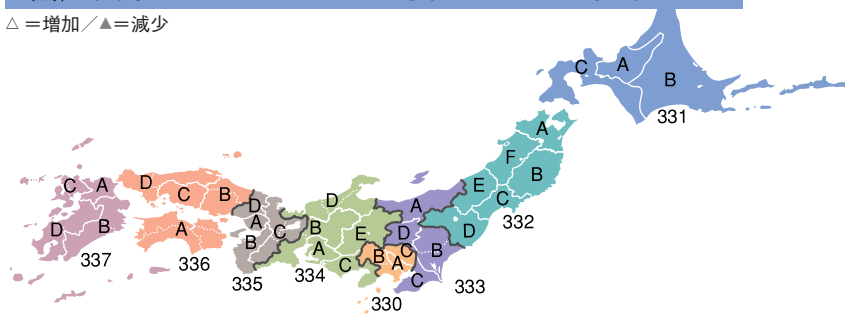
日本ライオンズクラブ クラブ数・会員数

世界のライオンズ

2006.7.31.国際協会集計	■クラブ数	■会員数	期首からの増減
ライオンズ国または領域　200	45,064	1,301,241	△ 255

日本のライオンズ

2006.8.31. 各キャビネット事務局集計		■クラブ数	期首からの増減	■会員数	期首からの増減
330-A	東京	207	0	5,552	△ 53
330-B	神奈川・山梨・東京	192	△ 1	5,779	△ 85
330-C	埼玉	106	0	2,934	△ 15
330	計	505	△1	14,265	△ 153
331-A	北海道（道央）	77	0	2,850	△ 15
331-B	北海道（道北・道東）	98	0	3,071	△ 8
331-C	北海道（道南）	62	0	2,165	△ 8
331	計	237	0	8,086	△ 31
332-A	青森	69	0	2,148	△ 28
332-B	岩手	57	0	1,896	△ 13
332-C	宮城	82	0	1,828	▲ 3
332-D	福島	79	0	2,292	△ 10
332-E	山形	56	0	2,025	△ 16
332-F	秋田	56	0	1,602	△ 5
332	計	399	0	11,791	△ 69
333-A	新潟	79	0	2,988	△19
333-B	茨城・栃木	137	0	4,339	△16
333-C	千葉	128	0	3,574	▲ 9
333-D	群馬	56	▲ 1	2,185	▲ 2
333	計	400	▲ 1	13,086	△24
334-A	愛知	118	0	6,027	△62
334-B	岐阜・三重	88	0	4,157	△56
334-C	静岡	83	0	3,564	△18
334-D	富山・石川・福井	98	0	4,395	△41
334-E	長野	55	0	2,398	△29
334	計	442	0	20,541	△206
335-A	兵庫（東）	110	0	3,080	△30
335-B	大阪・和歌山	203	0	7,232	△24
335-C	滋賀・京都・奈良	123	0	4,768	△26
335-D	兵庫（西）	69	▲ 1	2,447	△11
335	計	505	▲ 1	17,527	△91
336-A	徳島・高知・香川・愛媛	155	▲ 1	6,531	△31
336-B	鳥取・岡山	102	0	3,910	△5
336-C	広島	106	0	4,166	△40
336-D	島根・山口	109	0	3,851	0
336	計	472	▲ 1	18,458	△76
337-A	福岡・長崎	119	0	5,101	△71
337-B	大分・宮崎	90	0	2,962	△23
337-C	佐賀・長崎	84	0	3,368	△32
337-D	熊本・鹿児島・沖縄	145	0	4,694	△31
337	計	438	0	16,125	△157
総計		3,398	▲ 2	119,879	△807
世界のライオンズの		7.5%		9.2%	

△＝増加／▲＝減少

SCENE

緩やかな動きは、意外にもハード。太極拳で健康づくりを。

新潟県・分水ライオンズクラブ

■文／砂山幹博　写真／田中勝明

中国風の楽曲がラジカセから流れ出すと、それまで直立不動を保っていた人たちが一斉に動き出す。両手を前方へ伸ばしてゆっくりと腰を落とし、片足で身体を支え、手で円を描きながら、重心を前へ後ろへと移動させる。分水ライオンズクラブ（佐藤洋一会長／48人）が主催する太極拳教室でのワンシーンだ。市民の健康増進に貢献しようと、新潟県燕市内の分水公民館で毎週火曜日に行われているアクティビティは3年目を迎えている。

「健康志向を反映してか、太極拳人口は緩やかですが増えているという実感があります」と話すのは、教室の生みの親ライオン松井芳雄。近隣の町で太極拳サークルが出来つつある中、分水町（当時：2006年3月20日に市町村合併で燕市に）にはまだこうした教室がないことを知ったのが3年前、ライオン松井がクラブ会長を務めた年である。かねてから模索していた健康増進のアクティビティとイメージがピタリと重なった。

町の広報などを通じて募った参加者は皆初心者。時間は少々かかったが、本場中国でやっている型と同じ「24式太極拳」をプロの講師に手取り足取り指導してもらった。その結果、現在35人いる生徒のうち8人が有資格者に。ライオン松井も最初はずぶの素人だったが、今では旧分水町地区に一人だけという1級保持者。県の太極拳連盟からの要望もあって、来年はいよいよ段に

挑んで指導者を目指す。

午後8時過ぎ、教室にお邪魔すると、既に40人以上の人が会場に集まっている。実は2日前、分水ライオンズクラブは40周年記念式典を終えたばかり。なまった身体を気にしてか、一般の参加者に混じってメンバーの顔もちらほら見える。ちなみに記念式典では、中国衣装に身を包んだライオン松井とメンバー夫人3人が太極拳を披露。好評を博したそうだ。

30分かけて入念に準備運動を行った後、例の中国風音楽が鳴り響いたので、見よう見まねで24式太極拳に挑戦してみた。腰を落として頭の高さを変えずに、片足で体重を支えるのがことのほか難しい。1分ほど経った所で腿の筋肉がつらくなってきた。通常は5分間で1セット。教室では、体の動きに独特の呼吸法を合わせてこれを4～5セット行う。しかし、何ぶん週に一度の機会、なかなか覚えられるものではない。そこで、火曜の夜の教室とは別に、ライオン松井は毎朝6時に自主的に太極拳教室を開くようになった。ここでは、ライオン松井が講師を務める。朝の散歩で通りかかった人たちがすぐに参加出来る気軽さが受け、夜の教室に負けず劣らずの人気ぶりだ。

最後に、上達のコツをライオン松井に聞いてみた。「とにかく続けること。継続は力なり」金言である。

L C I F REPORT

日本ライオンズの交付金事業例

チェンライの幼稚園での井戸設置及び園舎修繕工事

●愛知県・東海ライオンズクラブ●

LCIF国際援助交付金：10,000ドル　愛知県・東海ライオンズクラブ：9,100ドル
タイ・チェンライ・ライオンズクラブ：2,850ドル　事業完了日：2005年12月20日

これまで飲料水は購入していたが、今日からは水道水が飲めると大喜びの子どもたち

ほっぽらかしになった幼稚園

タイ最西北部、ミャンマーとラオスに国境を接するチェンライ県。かつては幾多の山岳民族が移動を繰り返しながら暮らす地であった。が、彼らの焼き畑農業が森林減少の原因と見るタイ政府が、この半世紀来、定住化政策を推進。山岳民族も徐々に土地に根を下ろすようになってきた。しかし、定住後の行政の対応は十分ではなかった。子どもの教育環境は未整備で、読み書きが出来ないままに成長した子は、十分な収入が得られる仕事に就けないのが現状だ。

県の中心・チェンライ市近郊にパクラという村がある。380世帯のカレン族という山岳民族が暮らし、36人の子どもたちが村のヤンカムヌ幼稚園に通っていた。しかしこの園の状態というのが……。

床面積わずか4×20メートルの園舎に全員が詰め込まれて蒸し風呂のよう。老朽化した天井の3割に穴が開き、二つしかないトイレの一つは壊れたまま。湧き水や雨水を溜めたものを手洗いなどに使うため結膜炎になったりお腹を壊す子どもも少なくない。それでも人々は「貧しい村だから」とあきらめることに慣れてしまっていた。パクラ村には観光客を呼ぶような要素がなく、役場も無関心を決め込んだ。

日秦協同の援助事業に

このチェンライでタイ人の夫と旅行代理店を営む日本人女性がいた。チェンライ・ライオンズクラブのメンバーでもあるその人・ライオン山地幸は、近隣の山岳民族への奉仕活動を10年来続けていた。ヤンカムヌ幼稚園についても「何とかしなければ」という使命感にかられてはいたが、自分のクラブの独力では到底解決出来ないことも分かっていた。そこでライオン山地は日本の知人、東海ライオンズクラブのライオン竹内篤郎に相談を持ち掛けた。

早速、ライオン竹内らは幼稚園の視察に訪タイ。これに参加した村瀬武会長はその時の印象をこう語る。

「話では聞いていても、現地を実際に見た時はショックでした。穴の開いた天井からは鳥の糞が落ちてきて部屋は異臭がし、コンクリで出来た貯水槽にはフタがない上に何年も掃除されず腐った葉っぱや虫が浮かんでいました。でも子どもたちの目はとっても澄んでいて、踊りや歌を披露して私たちを歓迎してくれたんです」

チェンライ・ライオンズクラブからの正式な協力要請を受け、東海ライオンズクラブは両クラブでLCIF国際援助交付金の活用を提案。異なる国のライオンズ間の協力事業に拠出され、申請者は交付金と同額の資金を

用意するものだ。そして2005年8月、1万ドルの申請と共に改善事業がスタートした。

地を掘り下げ、やぐらを組み上げる

ヤンカムヌ幼稚園に必要なものは清潔で安全な生活用水及び飲料水の確保、健康で文化的な最低限度の保育環境を維持するための校舎、十分なトイレの確保、病気予防のための清潔で独立した手洗い及び洗面場などであった。そこでまず、井戸の掘削と高架水槽及び配水管設置の給水事業、及び園舎とトイレの修繕が実施されることになった。

が、井戸を掘り進めるうち、10メートルほど掘った所で厚い岩盤に突き当たり機械が故障したこともあった。それでも深さ60メートルでなんとか水が出た。

タンクの前で。ジャンヤ310-A2地区ガバナー（中央白服）、奥村仁志元334-A地区ガバナー（東海ライオンズクラブ／右隣）と両クラブ役員たち

貯水タンクは高さ9メートルのやぐらの上に設置する。が、幼稚園に引かれた電力ではやぐらが組み立てきれない。そこで、チェンマイの工場で組み、深夜に250キロの道のりをトレーラーで運んだりもした。

園舎は増築すると共に、壊れた天井を張り替え、瓦を葺き替えた。窓も増設して風の通りを良くした。トイレの増設、手荒い場の設置と貯水タンクからの配水、これらの工事がチェンライ・ライオンズクラブの監督下で、地元業者によって進められていった。

井戸だけじゃない

11月下旬、工事は無事落成した。幼稚園教諭の感謝の言葉。

「ライオンズの皆さんがくださったものは、井戸や校舎だけではありません。自分たちに手を差し伸べてくれる人がいるという喜びと自信、そして何度も村を訪れて繰り返し園児に話してくださった『学ぶことの大切さ』が、子どもたちに確実に浸透しています」

チェンライ・ライオンズクラブのライオン山地はこうつけ加える。

「行政にも変化が現れ、村の助役が定期的に園を訪問するようになりました。ホームページで一連の活動を紹介したおかげで、日本各地から草の根レベルの援助が寄せられています。今や村の人たちにとって日本は心の隣国となりました」

竣工式のために訪タイし、水道を使う子どもたちのうれしそうな顔を見た東海ライオンズクラブのメンバーたちは、この事業の真の価値を実感した。そして将来はあの子どもたちが日本とタイを結ぶ強固な架け橋となってくれることを期待している。

改修された教室でコーカイ（タイの「あいうえお」）の学習。近くの小学校の生徒も仲間入り

こころのチキンスープ●ライオンズ編

生徒たちの感謝状

構成／青山研

「感謝の念とは、心に書き留めた記憶である」
――J・Bマッシュー――

不満という程ではないが、何となく物足りなかった。横浜保土ケ谷ライオンズクラブのライオン近藤賢一はメンバーになって2年。言われるままに例会に出席し、アクティビティに参加しても、どうも手応えが感じられなかったのだ。これで良いのか、という思いもあった。

横浜保土ケ谷ライオンズクラブは40年前、１９６６年10月に誕生した。40年前というと、全国で会員数は6万人しかなかった。それでも皆が懸命だった。地域の人の役に立とうと汗を流していた。

市民を巻き込んで町中に10万本のチューリップを植えたり、ヘルパー制度も整っていないこの時期に、定期的に一人住まいの老人を訪ねたり、養護学校の子どもたちを招いて毎年、雪の学校を開いたクラブもあった。全国のライオンズが、奉仕の原点を見つめていた。これこそがライオンズだと、真剣だった。

そんな仲間の中に横浜保土ケ谷ライオンズクラブもいた。先輩クラブを見習って、さまざまな奉仕活動が始まっていく。体の不自由な子の施設のクリスマス会を訪問したり、一人暮らしのお年寄り宅を訪れて毛布を贈った。アイバンク・献腎登録活動では、地区で金賞を受賞したこともある。40年間のアクティビティは金額ではおよそ６７２０万円にもなった。

ところが、ライオン歴2年のライオン近藤には、最近のアクティビティは何となくのれんに腕押しの感じがしないでもなかった。金額で言うと、この５年間の総額は８１５万円に迫っていた。

「ライオンズのアクティビティって何だろうな。金額かな?」

昨年の秋、ライオン近藤はライオン守屋利彦に誘われて、ライオン寺崎寿一と共に、薬物乱用防止教育認定講師の講習会に出席した。スポンサーのライオン守屋は、日頃のライオン近藤の様子が気になっていたのかもしれない。

講習会は衝撃的だった。薬物に侵されていく子どもたちの様子は正視に耐えられなかった。この事実を一人でも多くの子どもたちに知らせなくては。ライオンズこそがこの事実を伝えるべきだ、

イラスト／吉田悦子

近藤はそう思った。

講習会の報告を聞いて、理事会が40周年記念アクティビティにこのテーマを取り上げることを決めた。立ち上がりは素早かった。「地域の子どもたちの未来を守ろう」をテーマに、保土ケ谷区内の小中学校29校に啓蒙用のＤＶＤが贈られた。併せて校内に侵入してくる暴漢の暴力を防ぐために、江戸時代の捕り物に使われた「さすまた」各３本も贈られた。校長会の協力で、権太坂小学校、瀬戸ケ谷小学校、境木中学校では講演会も開いた。小学校では子どもたちの感謝の言葉を綴った小冊子を贈ってくれた。思いがけなかった。心の中で何かがはじけた。２年間のアクティビティでは感じられないことであった。更に、岩井原中学校から思ってもみない電話が掛かってきた。

「生徒たちが感謝状を贈りたい、と言っているんですが、よろしいでしょうか」

「感謝状ですか？」

「ええ、生徒たちが、自発的にクラブに差し上げたいと……」

子どもたちから感謝状を贈られる。信じられなかった。近藤は何か遠い所からの伝言を聞いているような気がした。

7月の例会に岩井原中学校の生徒代表が招かれた。代表の女子生徒は、緊張しているようだったが、感謝状を読み上げる声は実に堂々としていた。

「ライオンズクラブの名前は知っていても、どういう活動をしているかは知りませんでした。ＤＶＤを寄贈されたのをきっかけにインターネットで調べたところ、世界でも有数の素晴らしい奉仕団体で、私たちの知らないところで、私たちのためにさまざまな活動をしてくれていたことを知り、感謝の気持ちを表したいと思い、感謝状を作りました。私たちもウィ・サーブの精神を持って、がんばっていきたいと思います」

面はゆい気がした。感謝されたくて奉仕をしているわけではない。でも、どんな気持ちで受け止められているのかくらいは知りたい。生徒たちの感謝状は、その思いに応えてくれるものだった。生徒たちの帰り際、近藤は思わず声を掛けた。

「大きくなったら、ライオンズクラブに入るんだよ」

大きな、元気な声が返ってきた。

「はい！」

嬉しくなった。教えられたような気がした。静かにアクティビティへの思いがあふれてくるのを感じていた。

3

4

5

岐阜県・明智（334-B）

8月21日、明智町明知鉄道協力会が明知鉄道沿線環境美化の一環として、以前植栽したドウダンツツジなどの草刈り作業を行った。当クラブからもメンバー3人が参加し、2時間にわたって作業した。

大阪道頓堀（335-B）

環境保全の一環として、御堂筋大清掃アクティビティを8月10日実施した。御堂筋の三津寺町から博労町3丁目交差点までをメンバー22人が分担しながら、1時間掛けてさまざまなゴミを拾い集めた。

愛媛県・今治（336-A）

7月16日、波方公園グラウンドにて第15回今治ライオンズクラブ旗争奪サッカー大会が晴天の中開催された。早朝からメンバー5人が参加し、参加15チームの選手たちはドイツ・ワールドカップに負けない程の熱くはつらつとしたプレーをし、盛会のうちに終了した。

広島県・本郷（336-C）写真3

恒例となっている「沼田川いかだ&クリーンアップ」を今年も8月20日に開催し、18チーム、176人が参加した。当クラブの継続事業となっているが、今年度は障害者の社会事業参加意識の高揚と一般住民の障害者に対する認識を深めて頂く場として実施。2チーム、23人の障害者の参加もあり、更に交流を深めることが出来た。

福岡県・北九州西（337-A）写真4

当クラブでは昭和42年度から年間すべての祝日にメンバー全員が交代で花尾山頂上に登り、朝8時に国旗を掲揚、夕方4〜5時に国旗を降ろす継続アクティビティを天候を問わず実施している。大変な労力と、メンバー全員の協力が必要だが多くの市民から「今日も花尾山に国旗が上がった」と喜ばれている。

宮崎県・延岡（337-B）写真5

7月22日、知的障害児入所施設「ひかり学園」の園内にて夏祭りを開催した。当日はボランティアによるボール投げゲームやヨーヨー釣りなどの他、飲食コーナーでは焼きそばや焼き鳥などの出店をした。14人のメンバーが参加し、200人の入場者で賑わった。

熊本マグナ（337-D）

8月26日に今年度第1回目の献血推進運動を下通り献血ルーム前にて行った。170人もの献血希望があり、比重不足などの理由で献血出来なかった方もいたが、最終的に200mlは4人、400mlは61人、成分献血は53人と多くの協力が得られた。献血に協力して頂いた記念品として全員にフランスパンを配った。

■投稿要領→62ページ
※サバンナ(マンスリー報告システム)からも文字原稿を投稿頂けます。サバンナで投稿された原稿は、『ライオン』誌ウェブマガジンの「クラブ・リポート」でご紹介していますので、こちらもご覧ください

サービス・アクティビティ

東京駒込（330-A）
8月6日、文京区立特別養護老人ホーム「くすのきの郷」で納涼祭を開催した。当クラブから12人が参加し、焼き鳥やうなぎの屋台を出店した。またアトラクションとして、湯島天神白梅太鼓が披露された。

北海道・旭川（331-B）
これまで廃棄埋め立て処分されてきたペットボトルのキャップを回収し、木粉を混ぜた製品に加工し、ベンチ6台を旭川市科学館の外庭に寄贈した。学校、公共施設、企業など124カ所に回収ボックスを設置し1年間回収を続け、587万個、12.9トンのキャップの回収に成功した。

北海道・小樽うしお（331-C）
7月3日、合同アクティビティとしてキティホーク乗組員60人、自衛隊員15人とメンバー8人で銭函海岸の清掃活動を行った。当日は天気もよく暑かったが全員で丁寧にゴミを拾い、大変奇麗なビーチになり、気持ちよい汗を流した。

青森県・八戸中央（332-A）
8月24日、第18回八戸中央ライオンズクラブ旗争奪ゲートボール大会を行った。参加者の最高齢表彰は男性88歳、女性89歳だった。天候にも恵まれけがもなく、無事に予定通り終了した。

山形県・天童王将（332-E）写真❶
7月30日、天童市の将棋むら天童タワー駐車場でクラブ主催のチャリティー・バザーを開催した。メンバーたちが持ち寄った日用品の他、協賛として提供して頂いたスイカやバナナ、納豆などが並んだ。売上金は全額、視力ファーストⅡキャンペーンに献金する。

茨城県・水戸葵（333-B）
7月9日、小雨の中、水戸市主催の第16回那珂川水系クリーン作戦が、河川愛護運動の一環として実施された。当クラブの他、市内の5クラブと、31の企業、団体、延べ1,276人が参加し、清掃活動を行った。約2時間の作業で可燃物810キログラム、不燃物260キログラムのゴミを集めることが出来た。

栃木県・宇都宮（333-B）写真❷
JR宇都宮駅のバス停近くにかつて寄贈した御影石ベンチの周辺に最近ゴミが捨てられることから、清掃活動を実施することになった。宇都宮市が毎月第3日曜日を一斉清掃日と定めていることから、当クラブも同日に定め、各町内会を始め各種団体と共に地域ぐるみでの清掃活動となっている。

愛知県・名古屋緑（334-A）
7月7日、名古屋市立小坂小学校にて6年生126人を対象に薬物乱用防止教室を実施。大切な命を脅かす薬物について正しい知識を持ち、薬物の乱用を絶対にしないという意識を持たせることを狙いとして開催した。キャラバンカーの出動を要請し、生徒へ記念品を配布した。

CLUB REPORT クラブ・リポート

●この欄ではライオンズクラブ、レオクラブ、ライオネスクラブの活動報告を扱います。詳しい投稿要領は62ページ、または『ライオン』誌ウェブ・マガジンをご覧ください。

熊本県・人吉ライオンズクラブ

杖の転倒防止器具を贈呈

人吉ライオンズクラブ（前田保会長／44人）は8月17日、人吉市社会福祉協議会を訪れ、「多くの方に使って頂きたい」と杖の転倒防止器具100個をプレゼントした。

この器具は杖に装着して使うもので、マグネット式になっており、事務机や棚などの金属部分に固定出来る。両手を使う必要がある時に、杖を手放して作業出来るので、とても便利である。

川内敏次市社会福祉協議会事務局長は、「福祉施設の老人への配布や、窓口に配置したり、杖を使う人に勧めるなど善意が届くようにしたい」と約束してくれた。

また、福永浩介市社会福祉協議会長からは感謝状を頂き、メンバー一同、大変嬉しく思っている。当クラブでは、学校や福祉施設に資金獲得事業で得た収益金から書籍や物品、寄付金を贈るなど多方面での奉仕活動を展開している。

（幹事／生駒健之輔）

（編）杖にマグネット。なるほど便利なアイデア器具ですね。次は役所などの公共施設の要所ごとに鉄板を張って回ったりして。

連絡先→0966・22・7300

広島県・東広島ライオンズクラブ

EM菌を貯水池に流す

東広島ライオンズクラブ（木原龍明会長／47人）は7月10日、小学生に水の浄化に役立つとされる有用微生物群（EM菌）の活性液を分かりやすく紹介し、近くの調整池にこれを流すアクティビティを行いました。参加した児童は、市内を流れる黒瀬川の水質や生き物を授業で調べている西条小学校の4年生ら152人。

クラブ・メンバーが活性液を川に流し、ヘドロが減った事例を小学生らにビデオで紹介。その後貯水池に移動し、米のとぎ汁に糖みつとEM菌を混ぜて作られた活性液、約90リットルを流しました。9月までに月2回流し、効果を確かめる予定です。

（幹事／尾原睦明）

（編）EMは琉球大学の比嘉照夫教授が発見・開発した、さまざまな働きをする微生物を組み合わせた培養液。農業に使えば農薬や化学肥料が不要で、収穫高を上げることも可能。家庭排水を生む風呂、台所、トイレなどでも活用出来るそうです。

連絡先→082・423・5522

イラスト／篠田和夫

愛媛県・松山南ライオンズクラブ

手作り梅干しのプレゼント

松山南ライオンズクラブ（土井浩一会長／44人）は5月28日、第5回石手梅林園アクティビティを例会と共に開催した。寒気が強かった今年の気候のせいもあり、梅の開花は約半月遅れ、実も少し小粒であったが、梅林園の皆さんの行き届いた管理により、どの実も青緑でみずみずしい若梅ばかりであった。

今年も東雲大学の留学生らと共に、数百本ある梅樹から青梅を収穫した。実を取る人や水洗いする人など分担制で手際よく作業が進められ、梅の実約500キログラム、大樽23個分の梅漬け加工が完了した。

お昼には手作りのそうめんとおにぎりを用意し、留学生らと共に楽しいひとときを過ごした。また昼食後の例会にも出席して頂き、自己紹介に合わせて日本での留学生活の実情や体験談など話して頂いた。

そして7月15日、皆で漬け上げた梅干しが出来上がり、同じく石手梅林園において、梅干しの贈呈式を開催した。贈呈先は地元の老人ホームや病院、福祉施設など全部で21カ所。大樽に漬けた梅干しを1樽ずつお持ち帰り頂き、大変喜ばれた。

（前環境委員長／白石春夫）

（編）梅の実の収穫から梅干し贈呈までの一連の活動は、季節の風物詩であり交流の場であり、またおいしい嬉しい品物の贈呈でもあり。関係者誰もが楽しみにしているアクティビティだと思います。

連絡先↓089・913・1635

北海道・滝川中央ライオンズクラブ

障害者の自立助ける喫茶コーナー

滝川中央ライオンズクラブ（毛利昭夫会長／46人）では、このたび認証25周年記念として障害者支援アクティビティを実施しました。

社会福祉法人ほほえみ会が滝川市役所1階ロビーに喫茶コーナーの開設を計画していました。そこで当クラブは設備や備品一式121万円相当を贈呈。晴れて7月1日、「喫茶プティ」がオープンとなりました。

園生の自立心向上、社会訓練、市民との交流の場として運営出来ることを期待しています。喫茶コーナーの営業は1日2交代制で、従事者は園生3人、ボランティア1人で運営し、コーヒーに施設園生手作りのクッキーをつけて1杯200円で販売します。また、当クラブと付き合いの深い喫茶店マスターにお願いし、園生に対してコーヒー豆の選別、コーヒーの入れ方、サービスの心構えなど約3カ月間にわたり研修をして頂きました。特にコーヒーの味はマスターからお墨付きを頂けるまでになりました。

4月に施行された障害者自立支援法により、施設利用者が所得の1割を求められるなど、厳しい問題も抱えてのスタートになりました。知的障害者が住み慣れた地域で暮らせる環境作りが大切なのではないでしょうか。当クラブはこれからも温かく見守り、支援していきたいと思います。

（幹事／古舘博嗣）

（編）おいしいコーヒーと気持ちの良い接客で、市民の皆さんに親しまれる喫茶コーナーになるでしょう。がんばってください。

連絡先↓0125・24・5331

大阪城東ライオンズクラブ
少年よ　甲子園を目指せ！

2日間にわたり、熱い闘いを繰り広げ、日本中を感動の渦に巻き込んだ夏の甲子園、全国高校野球の優勝決定戦。いまだその興奮の冷めやらない8月23日、大阪城東ライオンズクラブ（石原力会長／37人）は、青少年育成事業の一環として元阪神タイガースの亀山努外野手、久慈照嘉内野手、元オリックスの佐野滋紀投手を招き、蒲生公園グラウンドで野球教室を開催、城東区内の少年野球12チームの170人が参加しました。

2001年から実施しており、今年で6回目を迎えました。大変好評で毎年参加希望が多く、残念ながら区内全27チームをローテーションで、年齢も小学5、6年生に限定して参加頂いている状況です。

3人の元プロ野球選手にはそれぞれの専門分野を手取り足取り熱心にご指導頂き、投捕球、バッティングなど、少年たちの技量向上に大いに役立ちました。また、亀山元外野手が監督を務める枚方リトルリーグは、1999年にリトルリーグ世界大会で優勝しています。その優れた指導力でご指導頂いた少年たちの中から近い将来、甲子園球児が誕生し、やがてプロ野球選手として活躍することを期待します。そしてすべての子どもたちが、スポーツを通じて不屈の精神を養い、礼儀正しい青年に育つことに少しでも貢献したいと願っています。（PR委員長／山下昭三）

（編）今年は強くて礼儀正しい高校球児の姿が感動を呼びましたね。この野球教室に参加した子どもたちもきっとあんなふうに成長してくれるでしょう。

連絡先→06‐6358‐0800

北海道・帯広かしわライオンズクラブ
帯広市福祉大運動会を後援

8月27日、帯広市緑ケ丘公園の多目的広場で「第42回帯広市福祉大運動会」が開催され、障害者と家族、ボランティアなど350人が参加し、競技を通じて交流を深めました。

この大会の後援は、帯広かしわライオンズクラブ（高橋良行会長／47人）の継続事業の一つとなっています。今回は、大会を主催した帯広心身障害者（児）育成会に自転車も寄贈し、併せて試乗会が行われました。

心身に障害を持った人々がボランティアらと、軽スポーツを通して相互の交流を図ると共に、自立や社会参加につながっていくことを願っています。また、市民らの障害者に対する理解を促進し、福祉の向上に寄与することを目的としています。

（幹事／河崎一郎）

（編）寄贈された自転車は、視覚障害者用タンデム（2人乗り）自転車。健常者が前の席で運転します。風を切って走る感覚は、きっと新鮮な喜びだと思います。

連絡先→0155‐24‐1020

東京新宿御苑ライオンズクラブ
夜の新宿御苑で夕涼みコンサート

「夜の新宿御苑ってこんなに涼しかったの」
「夜風が気持ちいいね」

去る7月31日に新宿御苑で開催された夕涼みコンサートに参加したお客さんの感想だ。

明治39年に庭園として改造され今年100周年を迎えた名園・新宿御苑は、大都会の中心にあって貴重なオアシス。東京新宿御苑ライオンズクラブ(30人)は、新宿御苑を夜間に開放して頂き「夕涼みコンサート」を開催。周辺地域に暮らす人々や勤務する人たちに、芝生の上でのチャリティー・コンサートを鑑賞して頂いた。閉園後のコンサートは新宿御苑でももちろん初めての試みである。

大イベントの実施とあって何かと心配が尽きないメンバーの不安をよそに、当日は中山弘子新宿区長もお見えになり、観客は3千人以上が集まった。サロンオーケストラや出演者100人のゴスペル、シャンソンの他、地元に伝わる新宿音頭など、総勢200人の出演者がさまざまな楽曲を披露した。

今回は、当クラブのチャーター・ナイト30周年記念行事の一つとして提案され、地域と共に築く文化活動として実現したもの。

また、当日コンサートに来て頂いた方の中からなんと8人の入会希望があった。その中には女性も3人おり、女性会員がまだまだ少ない当クラブも更に活気が増すであろう。

(会長/出井猛)

(編) 地域市民を巻き込んだ素晴らしいアクティビティこそが会員増強の鍵であることの実証。こんな素敵な活動をするグループの仲間になりたいと思いますものね。

連絡先→090-2724-3295

長野県・松本ライオンズクラブ

少年軟式野球大会と献血

松本ライオンズクラブ（太田昌良会長／52人）は9月9、10日の2日間にわたり、松本市の神林農村広場と今井グラウンドにて「第28回松本ライオンズクラブ旗争奪少年軟式野球大会」を開催しました。今年は昨年より4チーム多い16チームが参加し、日程も1日から2日間に変更しました。

神林農村広場で行われた開会式で太田会長は「練習の成果を精いっぱい発揮してがんばってほしい」と激励。試合はトーナメント戦で、会場では保護者やチームメートの声援を受けながら、選手たちははつらつとプレーし、勝利を目指して熱戦を繰り広げました。

また今回初めて、この大会に併せて献血事業にも取り組み、選手の保護者やメンバー約100人が協力、大きな成果を収めました。

（環境委員会委員長／有賀正）

（編）既に人が集まっている所で献血を呼び掛ければ効率が良いですね。子どもたちががんばっているのと同じ会場で、親御さんも一つ善行が出来て、気持ちいいですよね。

連絡先→0263・33・6216

千葉県・館山中央ライオンズクラブ

郷土を愛する心を育む「海辺の集い」

去る8月20日、館山中央ライオンズクラブ（松坂一男会長／28人）は「すこやかに育てよう明日の子らを」をモットーに、青少年健全育成事業の一環として館山市教育委員会の後援とボーイスカウト、ガールスカウトの協力を得て「海辺の集い」を開催しました。

これは海の街に生まれ育った地域の子どもたちが風光明美で温暖なこの郷土を愛する子に育ってほしいとの願いを込めたイベント企画です。

当日は久々に夏らしい灼熱の太陽がこの房総の地に顔を出し、穏やかな波が打ち寄せる館山湾では、大型クルーザーでのクルージングやジェットスキー、バナナボートやアクアグレイドなど多彩な水上アクティビティで海の楽しさを満喫しました。また浜辺ではスイカ割りに子どもも大人も歓声を上げ、昼食にはメンバーが腕を振るった特製手作りの焼きそばに参加者一同舌鼓を打ちました。

去りゆくひと夏の思い出作りに家族間のスキンシップを育み、青少年健全育成事業本来の目的を今回の「海辺の集い」で担うことが出来ました。

参加協力をしてくださった地域の方々とお手伝いを頂いた多くの方々に感謝し、お礼申し上げます。

（元リジョン・チェアパーソン／荻野和雄）

（編）とっても楽しそう！　もちろん、郷土を愛する子どもたちが育つでしょう。成長して館山を離れることがあっても、消えない愛です。

連絡先→0470・22・3607

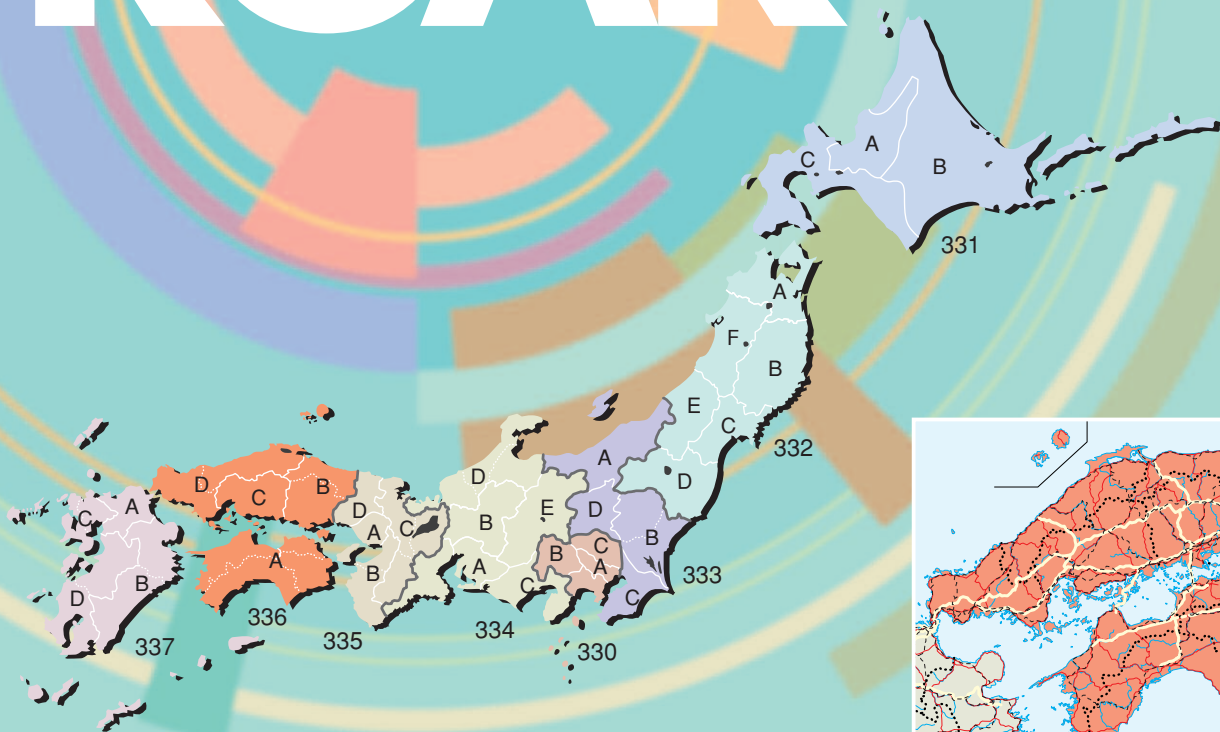
まるごと 336複合地区

Topics

日本の風景　広島県庄原

ふるさと探訪　鳥取

ROAR

331 A B C
332 A B C D E F
333 A B C D
334 A B C D E
330 A B C
335 A B C D
336 A B C D
337 A B C D

韓国の姉妹クラブと交換学生
中学生ら異文化交流を楽しむ

香川県・三豊ライオンズクラブ

■情報提供／谷口勝久（会長）

三豊ライオンズクラブ例会を訪れた韓国の中学生たち

香川県の西端、瀬戸内海に臨む三豊市。同市の三豊ライオンズクラブ（谷口勝久会長／65人）は、毎年8月、韓国の姉妹クラブのSAE晋州（ジンジュ）ライオンズクラブと、中学生の交換を行っている。日韓両国の友好親善を目的に、1993年から始められて今回で14回目。今年も4泊5日の日程で、晋州市の中学生5人が来日、三豊市の中学生4人が訪韓した。それぞれ、メンバー宅にホームステイしながら、互いの国の歴史や文化に触れた。

来日した韓国の中学生たちは、空海ゆかりの善通寺や瀬戸大橋、中学校などを見学。四国の暑さにバテ気味で、学校に冷房がないことに驚いていた。また、市内の老人ホームを訪れ、ベッドメイキングやお年寄りと触れ合うなどして、日本の介護医療を学んだ。「前回はパスポートを無くした子がいて大変だったが、今回は無事終了してホッとした」と亀山茂雄幹事。

晋州の町を歩く日本の中学生

一方、訪韓した日本の中学生たちは、晋州城や博物館を見学した。晋州城は、秀吉の朝鮮出兵の際、加藤清正率いる日本軍12万に攻められ、籠城した朝鮮側の6万人が全滅した悲劇の城。それを聞いた子どもたちは、一様に複雑な表情を見せていた。

その他、老人ホームで韓国のお年寄りたちとも交流。お年寄りが話す流ちょうな日本語にびっくり。子どもたちがカラオケで日本の歌謡曲を歌うと、何度もアンコールを求められたとのこと。

日本のお年寄りと談笑する韓国の中学生

後日、三豊ライオンズクラブの例会で行われた帰国報告で、中学生たちは「最初は不安だったが、韓国の人たちは気さくで優しい人ばかりで安心した」、「もっと会話が出来るよう、しっかり英語を勉強しなければ」などと話していた。

「出発前は頼りなかったが、帰国後は自信がついたようで、見るからに立派になった」と谷口会長。子どもたちの成長ぶりに満足げだった。

第1回の交換学生たちは、もう28歳。既に結婚している人もいるという。クラブでは、その子どもたちにも参加してもらえるよう、事業を継続していきたい考えだ。

Topics トピックス2

ザ・スウィート・ライオンズ プロ顔負けの演奏で市民に人気

高知北ライオンズクラブ

■情報提供／山崎雅文（副会長）

チャリティー・コンサートで演奏するザ・スウィート・ライオンズ

高知北ライオンズクラブ（品原啓二会長／38人）のメンバーらで編成したロックバンド「ザ・スウィート・ライオンズ」が、県内の福祉施設などで演奏活動を行っている。スウィート・ライオンズは、「優しいライオンさん」の意。5年前に音楽好きの50歳代を中心に結成された。エレキギター、ベース、ドラムスなどの他、バックコーラス2人という堂々の8人編成。レパートリーはベンチャーズの曲を中心に、加山雄三から民謡までと幅広い。

結成当初、メンバーは何十年も楽器を手にしてない人ばかり。その演奏は「雑音としか言いようがなかった」と、ドラムスのL山崎雅文。練習場所は、リズムギターのL福江義文のキリスト教会である。近所迷惑にならないよう、音量を気遣いながらの練習だった。しかし、「何度も『もうやめてやる！』と思った」（L山崎）という猛練習の結果、その演奏テクニックは、プロ顔負けのレベルに。

昨年12月には、市内のホールでチャリティー・コンサートを開催した。前半は、エレキギターを「テケテケテケ」とかき鳴らして、ベンチャーズの曲を披露。集まった観客320人は、乗りのいい曲に合わせて手拍子を取っていた。

後半には、満を持して自称・高知の加山雄三こと、ボーカルのL木村一成が登場。十八番（おはこ）の『君といつまでも』では、客席に降りて観客に握手を強要？するパフォーマンスも。観客は、L木村の「若大将なりきりっぷり」に苦笑しながら、懐かしい曲に聴き入っていた。

週1回の練習の様子

同クラブは去る10月8日、家に引きこもりがちなお年寄りを招いて、スウィート・ライオンズの生演奏を楽しんでもらう音楽会も開催。童謡や懐メロを演奏した。

リードギターの品原会長は「活動の場を学校や幼稚園にも広げ、音楽を通してさまざま世代の人たちと触れあいたい」と話している。

肩を抱きながら歌うL木村。10月8日の音楽会で

公衆トイレの清掃奉仕 利用者のマナーも向上

岡山県・笠岡ライオンズクラブ

■情報提供／東谷法文（PR委員長）

便器の中まで手を突っ込んで磨く

岡山県の南西端、南は瀬戸内海に面し、西は広島県に接する笠岡市。カブトガニの生息地として知られる。同市にある笠岡ライオンズクラブ（桑田昌光会長／44人）は、来年5月に結成50周年を迎える伝統あるクラブ。そのクラブが「原点にかえろう」と始めたことは「便所掃除」だった――。

同クラブでは、毎月2回、市内4カ所の公共トイレを清掃している。きっかけは、2年前、当時の羽原瑞雄会長の打ち出した「誰もがためらい嫌がるような労働奉仕をしよう」という方針。「汚い、臭い、暗い、怖い」の4Kと言われる公共トイレを清掃することになり、今年で3年目を迎える。

清掃しているトイレは、同市の海の玄関口であるフェリー乗り場や、利用者の多いJR笠岡駅前の公園など4カ所。清掃には、毎回、メンバー15人程が参加。小グループに分かれ、約1時間かけて念入りに掃除する。ゴム手袋に長靴という姿で、ブラシやぞうきんを使い、便器や床の汚れをこすり落とす。

当初は、「なんで公衆便所の掃除をしのうてはならんのか」と言うメンバーもいたが、トイレをきれいにすると気分がサッパリするのを知って便所掃除に「開眼」。今では「便器が子どもみたいで、かわいい」（羽原元会長）とのたまう御仁も。

最近はトイレを汚す人が減っているという

市民から「お金持ちのサロン」といったイメージを持たれがちなライオンズクラブ。そのメンバーが便器に手を突っ込む姿は、インパクトが大きく、テレビや新聞などで取り上げられた。

市民の反応は上々で、クラブには感謝の電話や手紙が寄せられる。市内の老人クラブからは、「皆が嫌がることを進んでやるのは素晴らしい」と、メンバー全員に手製の手提げ袋が贈呈されたことも。

トイレの周辺も清掃

近頃は、トイレがあまり汚されなくなっている。「掃除に掛かる時間も半分で済む。利用者の意識やマナーが向上しているのでは」と前環境保全委員長の中塚正。

同クラブでは、今後もこの活動をメーン・アクティビティとして継続していく方針だ。

Topics トピックス4

水質ワースト1の川で体験学習 小学生 きれいな川の大切さ知る

広島県・福山フラワー・ライオンズクラブ

■取材／編集部

広島県の東端、瀬戸内海に面する福山市。臨海部に鉄鋼や電機など大工場が建ち並ぶ重工業都市である。その発展を支えてきたのが、同市を流れる芦田（あしだ）川だ。その水質は、残念ながら、中国地方の一級河川の中で32年連続ワースト1という不名誉な記録を更新中である。原因は生活排水の流入。瀬戸内気候のため雨が少ないのも一因だ。そんなわけで、川遊びをする子どもの姿は全く見られない――。

福山フラワー・ライオンズクラブ（徳山君枝会長／41人）では毎年7月、市内の小学生を対象に、「芦田川せせらぎ教室」を開催している。川に入って水に親しみながら環境について考えてもらうもので、今年で7回目を数える。

水質変化の実験をする子どもたち

去る7月14日に行われたせせらぎ教室には、市立光小学校の4年生の児童70人が参加。メンバー19人が見守る中、体験学習を楽しんだ。

まず、同小学校からバスで浅瀬のある河川敷に移動。そこで、市職員の指導を受けながら、水中に生息する生物の種類から水質を判定した。子どもたちは半ズボン姿で流れに入り、川底の石を動かして虫を見つけたり、網でエビをすくったりして大喜び。しかし、判定は例年通り「少しきたない水」だった。「いろんな虫がいて気持ち悪かった」と筑紫直子さん。

川に入るのは初めての子ばかりだ

環境保全委員長の吉田圭子は「私が子どもだったウン十年前は、泳いだり、ハゼを釣ったりしていたんですけどねえ」と語る。

次いで、芦田川河川広報室「芦田川見る視（み）る館」を訪れ、水質変化の実験をした。芦田川の水100ミリリットルに砂糖、しょうゆ、みそ汁、ジュースをそれぞれ1ミリリットル入れ、試薬を使って化学的酸素要求量（COD）を測った。その結果、ジュースを混ぜた水が最も高い汚染度を示した。

「ジュース1滴でこんなに汚れるなんてびっくり。食べ残しや飲み残しを流さないようにしようと思った」と渡邊よし恵さん。

徳山会長は「川の環境保全の大切さを分かってくれたと思う。今後もこの活動を続けて、少しでも奇麗な川を次世代に残したい」と話している。

「すげーカエルがおったー」

トピックス5 Topics

小学生の演劇ワークショップ 奇抜な発想にプロも感嘆

島根県・益田ライオンズクラブ

■情報提供／石川忠司（会長）

舞台にはレモンなどに変身したユニークなオロチたちが登場

昔々、スサノオノミコトに宝剣で退治されたヤマタノオロチ。各地に飛び散ったその首は、月のクレーターや戦火のイラク、隣の中村くんちで生きていた?!——。

島根県の最西端、北は日本海に臨む益田市。巨大なオロチ（大蛇）が登場する石見神楽で知られる。同市の益田ライオンズクラブ（石川忠司会長／60人）は、今年8月18日から1週間にわたり、市内の小学生を対象にした演劇ワークショップ「ヤマタのオロチ2006」を開催した。

これは、子どもたちが、演劇のプロの指導を受けながら、芝居を手作りするもの。スポーツだけでなく、文化系に秀でた子どもにも活躍の機会を与えるのが狙い。「こどもたちに夢を」を掲げる同クラブらしい認証45周年記念事業だ。

ワークショップには、公募で集まった小学1年生から6年生までの33人が参加。講師は脚本家の山本健翔さん、造形作家カナイヒロミさんら5人が務めた。

講師陣の「オロチはどこかで生きているの?」という問い掛けに、子どもたちがアイデアを出し合って脚本を練り上げた。舞台美術なども手作り。連日、遅くまで残ってせりふの読み合わせや、芝居のけいこを繰り返した。

絵を描いてイメージをふくらます子どもたち

最終日に市内のホールで行われた公演には、保護者や市民ら約300人が集まった。芝居は、子どもたちが、オロチの首を見つけに旅する物語。舞台には、レモンやカラオケボックスなどに姿を変えた奇抜なオロチが次々と登場した。ヤマタノオロチは、いじめられていたお姫様をかわいそうに思って、おなかの中に隠したという新解釈も。来場者たちは、子どもならではの奇想天外なストーリー展開を楽しんだ。

「短い間に深い内容のものを創ってくれてすごい」と山本さん。

石川会長は「納得いくまで作業を続けるなど、子どもたちに創る喜びを知ってもらえてうれしい。今後も、文化面とスポーツ面の両面から青少年育成事業を進めていきたい」と話している。

紙吹雪を作るライオンズ

Topics トピックス6

ハクチョウの引っ越し大作戦 メンバーら水上の捕物に苦戦

山口県・下関響灘ライオンズクラブ

■情報提供／福田幸博（前会長）

ハクチョウを箱に詰めるメンバー

海峡と歴史のまち山口県下関市。その郊外にある池で、去る5月7日、ハクチョウを「深坂（みさか）ため池」に戻す作業が行われた。深坂ため池の改修工事に伴い、仮住まいしていた池から、7カ月ぶりに本来の池に戻す「お引っ越し」。NHKを始めマスコミ各社も駆け付けた。

作業に当たったのは下関響灘ライオンズクラブ（玉川豊会長／41人）のメンバー20人。約3時間にも及ぶ「捕物」の結果、逃げ回ったために捕獲出来なかった10羽を除く、13羽を元のすみかに帰した。

ハクチョウは、同クラブが「深坂ため池を市民の憩いの場にしよう」と、1980年から飼育してきたもので、現在、23羽。翼を広げると2・5メートルにもなり、平均体重は12キロほど。優雅な姿に似合わず、気性は荒いという。

「お引っ越し」は過去2回行われており、前々回は半数のハクチョウが逃げて失敗、前回はほぼ全部を捕まえて成功している。今回も作戦会議を重ね、リハーサルをするなど、万全の態勢で臨んだ。

今回の作戦は、周囲約500メートルの池の片隅にハクチョウをエサで誘い込み、事前に沈めてあった網を引き上げて、一網打尽にするというもの。が、一部が暴れだして網を破って逃走した。メンバーたちは急きょ、ボートで池に漕ぎ出して、網や素手で捕まえようと四苦八苦。マスコミの期待したドタバタ劇を演じてしまった。

ため池に放されるハクチョウたち

捕獲したハクチョウは一羽ずつ段ボールに詰められ、1キロほど離れた深坂ため池に放された。興奮していたハクチョウたちも、久しぶりの我が家に、リラックスした様子でスイスイ。

作戦を指揮したL小野倉利生は「水の上ではやっぱりハクチョウにかないません」と苦笑する。また、福田幸博前会長も「作戦が複雑すぎたかなあ」と反省しきり。

なお、逃げた10羽は、後日、今回の教訓を生かしたメンバーらにあっさりと御用になり、本来のため池に戻された。

網や素手での捕獲に悪戦苦闘

広島県・庄原
なだらかな草原の中に低木が点在する天空の広場

■切画：風祭竜二　文：編集部

庄原に住む従姉妹が、ある冬の朝、広島のデパートへ買い物に出掛けた。車は順調に市内へ入り、デパートまではあとわずか。が、やがて、妙なことに気がついた。

信号待ちをしていると、道行く人たちが、皆こちらを見てくるのだ。ご自慢のワーゲンゴルフではあるが、それほど珍しいわけでもない。自分たちが、あまりにも素敵なカップルだからかしら。思い切りポジティブな従姉妹は、そう思ったらしい。

その謎は、デパートの駐車場に車を入れて解けた。車の屋根に高々と雪を積んでいたのだ。

広島は温暖な瀬戸内から、中国山地の厳しい寒さまで、バラエティーに富んだ気候を持っている。県東北部の庄原市は標高200～500メートルで、気候の分類では「高冷地」に属する。2月の平均気温が氷点下9度というから、かなりのものだ。

表紙の撮影地はこの庄原市の北端にあり、広島・島根の県境となっている吾妻山（1239メートル）。なだらかな草原が広がり、とても気持ちのいい空間である。ちなみにこの辺りは太古の昔、海だった。甥っ子から、クジラやサメの歯の化石が見つかるんだよ、と教えてもらったことがある。当時は亜熱帯から熱帯気候に属し、海浜にはマングローブが生い茂っていたらしい。（鈴）

●観光一口メモ

吾妻山には国民休暇村があり、秋には地元で採れるキノコがたっぷり味わえる。庄原にはポプラ並木が美しい、日本最古の官営牧場「七塚原牧場」がある。また、中国地方有数の景勝地・帝釈峡にあるアーチ状の天然橋「雄橋」は長さ90メートル、高さ40メートルの壮大さで神の橋とも言われている。

●アクセス

JR芸備線備後庄原駅下車。下高野山行きバスで約1時間、森脇下車。車の場合は中国自動車道庄原ICで降り、国道432号線を北上。

●周辺クラブ

庄原に1962年結成の庄原ライオンズクラブ（スポンサー／広島ライオンズクラブ）と、その子クラブとなる西城広島ライオンズクラブ（64年結成）がある。

鳥取市（福部町）

カレーライスの脇役が、ここでは主役。鳥取が誇る「砂丘の宝石」を訪ねて。

■文／砂山幹博　写真／田中勝明

砂丘地という特異な環境が生み出した地場作物

総務省が都道府県庁所在地を対象に行った家計調査によると、平成15年から17年平均のカレールウ購入数量と消費金額が最も多かったのが鳥取市であった。この話を聞いて思い当たったのが、らっきょう。二十世紀梨と共に鳥取を代表する特産品である。らっきょうが福神漬けと並んでカレーの付け合わせとして人気が高いのは周知の通り。「うまいらっきょうがあるからカレーもすすむのだろう」と思っていたら、どうやら事情が違うらしい。真偽は定かでは

（43ジへ）風が吹いた早朝、砂がよく乾燥していると、さざ波のような模様をした「風紋」に出合えることも珍しくない
❶らっきょうの種（球根）は、砂の中にある約10カ月間に6～7球に分球する
❷苗を植え終えたばかりのらっきょう畑。見渡す限りの砂地だが、11月になると、赤紫色のじゅうたんを敷き詰めたようならっきょうの花が咲き乱れる
❸一人あたり1日平均で1万球近くらっきょうの種を植え付ける
❹ポピュラーな「甘酢漬け」の他、あっさり味の「塩漬け」や、たまり醤油に漬け込んだ「たまり漬け」などさまざま製品に加工される

ないが、女性の就業率が高い鳥取市では共働きが多く、作り置きが出来るカレーが重宝されているのだとか。

東西16キロ、南北2キロに及ぶ鳥取砂丘の東部にある福部町は、日本全国にその名を轟かせる「砂丘らっきょう」の一大生産地である。年間の出荷量1400トン。東京ドーム26個分に相当する125ヘクタールの砂丘地で、約300軒の生産者によって作られる砂丘らっきょうは、パリッとした歯切れの良さとみずみずしさが特長だ。水分を多く含むのは、水を溜め込まない砂地で育てられるため。また、土ではなく鳥取砂丘の細かな砂粒で栽培されるので、粒の白さが際立っている。土で栽培されたらっきょうはこれほど白くはならないそうだ。

❹

歴史は古く、江戸時代に小石川薬園(東京)から持ち帰ったらっきょうが広がったという説が有力である。その後、農家の庭先で自家用として栽培され続けてきたが、本格的な大規模栽培が始まったのは1953年にスプリンクラー灌水が導入されてから。古くから砂丘の農業利用について研究を行ってきた鳥取大学乾燥地研究センターの上山逸彦さんは、「砂地の特性を理解して灌水のコントロールさえうまく行えば、砂丘地での作物栽培は比較的容易」と話す。

らっきょうはほとんど水いらずで育つ作物だが、植え付けの時には多くの水を必要とする。

「スプリンクラーなどの灌水施設がない時代は、農家(主に女性)が桶に水を汲んで灌水しました」(上山さん)。桶の底には穴が空いており、その穴を栓で塞いで畑まで運び、畑では栓を抜いて、水が一カ所にたまらないよう走ったという。しかも、夏には地表面温度が50度以上にもなる灼熱の砂地をである。あまりの苛酷さから、後にこの桶には「嫁殺し」という名が付けられた。

砂丘らっきょうは「白さ」が命

らっきょうの植え付けは、7月下旬から8月末にかけて行われる。今は機械で行う所も多いが、腰を鋭角に折り曲げ、一つずつ手作業で種(球根)を植える人を見かけることも珍しくはない。砂地に刻み付けられた約40センチ間隔の畝と畝の間に、種を深植えしていく。深植えするのは、陽の光が当たってらっきょうの身が青くなってしまうのを防ぐため。ツヤのある真っ白な美しい肌は、砂丘らっきょうの代名詞。手を抜けない作業である。

らっきょう栽培は植え付けしてからが正念場で一時も目が離せないと、岩戸らっきょう組合の上田政一さんは話す。

「らっきょうには葉にも根にも虫が付くんです。特にやっかいなのがハマグリムシ。この虫に付かれると畑

が全滅しかねません。芽が出てから12月までの3カ月間は、丁寧に徐虫して若いらっきょうを強く健康に育てることに神経を使います。春に良いらっきょうが出来るのもこの期間の手間次第。らっきょう栽培はとても難しいですよ」

秋に赤紫色の花を咲かせ、冬を越したらっきょうは、翌年の5月～6月にようやく収穫期を迎える。収穫されたらっきょうは、葉を切り取って約1センチほど根を残した「根付きらっきょう」と、根だけではなく薄皮も取り除いて、塩水と酢水で洗った「洗いらっきょう」の2通りで出荷される。

❺家庭で自家製らっきょうを漬けるのも、鳥取ではごく普通。写真のような量も珍しくない

❻砂丘地農業を支える命の水。起伏の多い鳥取砂丘では、低いところで地下1メートルから湧水が染み出す

❼観光客を乗せ砂丘をゆっくりと歩くラクダは、年間130万人が訪れると言われる鳥取砂丘の名物

❽陽が暮れるとともに明るさを増す「漁り火」は、夏の鳥取砂丘を代表する風物詩

食卓には欠かせない自家製らっきょう

らっきょうの鱗茎には「薤白（がいはく）」という生薬名があり、古くから漢方薬の主成分として用いられてきた。「1日4粒食べると血液がサラサラになる」とテレビでも紹介され、健康食品としても注目されている。身近な食材とあって、鳥取では自家製のらっきょう漬けを作る家庭も多い。漬け方で最もポピュラーなのが甘酢漬け。漬け方にも2種類ある。取れたてのらっきょうを熱湯に10秒間浸し、塩、酢、砂糖で作ったらっきょう酢が入った瓶に漬ける「一発漬け」は、採れたその日にすぐに食べられる便利な一品。一方、鳥取市内に住む久原悦子さんのお宅で作っているのは、本格的な甘酢漬け。2週間ほどらっきょうを塩で漬け込んだ後、1日かけて水で塩抜きしてから、らっきょう酢に漬け込む。こちらは完成まで3週間近くかかる。「家族5人皆らっきょうが好きなものですから、一度に大量に作って1年中食べています。昨年は10キロ漬け

ましたが、少し余ったので今年は控えめに6キロ」と久原さん。おいしく作るコツは、おいしい水で漬けることと話す。塩漬けや赤ワイン漬けなど、地元ではまだまだいろいろな漬け方があるそうだが、どんな時にらっきょうを食べるか聞いてみたところ、「お腹が減った時つまみ食い」か「やはりカレーの時ですね」と話す。やはりここ鳥取では、カレーのベスト・パートナーはらっきょうに尽きるようである。

あご竹輪、豆腐竹輪

鳥取県でよく食されている食べ物の一つに竹輪がある。代表的なものを挙げるとするならば「豆腐竹輪」と「あご竹輪」だろう。

県内でも主に鳥取市で製造される豆腐竹輪は、木綿豆腐と魚肉を7対3の割合で混ぜ合わせ蒸したもの。この珍しい竹輪の起源は、江戸時代にまでさかのぼる。時の藩主池田光仲が領民に豆腐食を奨励したことがきっかけで、江戸中期には既に擦った豆腐を細い棒に巻き付けて加熱処理した豆腐竹輪が登場している。その頃、藩の財政難から、庶民の生活にも質素倹約が強いられており、魚を食することさえ贅沢とされていた。そんな背景の下、豆腐と魚肉を混ぜ合わせることが考案された。

一方、あご竹輪は、初夏の訪れと共に深夜日本海で水揚げされ飛び魚（あご）を100パーセント使った贅沢品だ。明治の中頃、魚屋やくずし屋（かまぼこ屋）が竹輪を焼く大きな屋台を野外に持ち出して、道路や空き地で竹輪を焼き上げたの始まり。旬は5～7月で、竹輪の価格はあごの相場で変動する。

鳥取県における1世帯あたりの竹輪の消費量は、他の都道府県をはるかに凌ぐ。同じく全国一のらっきょうと共に「県民食」と呼んでも過言ではなさそうだ

クラブ紹介

県が誇る一大観光地の名を冠した鳥取砂丘ライオンズクラブ（岡本善一会長／50人）。1987年に鳥取久松ライオンズクラブのスポンサーで誕生し、来年節目の20周年を迎える。設立当初から継続している年2回の献血を始め、多彩なアクティビティを精力的に行っている。JR鳥取駅前の風紋広場で行われるチャリティー・バザーもその一つ。メンバーが持ち寄った遊休品でバザーを開く他、各種ショーを開催。今年で9回目となるが、市民に親しまれるイベントとなっている。収益金の使途は毎年異なるが、過去には電動ベッドや車いす、砂丘用の押し車などを寄贈した。その砂丘でも年に2回、砂丘清掃を行っている。また、市内中学校の生徒会執行部を集め、さまざまな問題について議論を行ってもらう「輝く青少年を考える会」もこの12月で5回目を迎える。昨年は市内20校のうち18校が参加し、中学生同士の横のつながりを作ったと、学校側からも評価されている。

■鳥取砂丘ライオンズクラブから読者プレゼントがあります（65ページ）

第4回LCIFスタディ・ツアー

フィリピン医療奉仕とストリートチルドレン援護施設訪問

第4回LCIFスタディ・ツアーが、2007年2月9～13日（4泊5日）の日程で行われる。
これはLCIFが主催し、海外で実施されているLCIF交付事業を視察するもので、
過去3回はインド、カンボジア、タイを訪問。
今回はフィリピンで、日比合同医療奉仕への同行と、
ストリートチルドレンの援護施設訪問が予定されている

日本・フィリピン合同医療奉仕

今回のスタディ・ツアーのメーンは、32回目を迎える334‐E地区（長野県）のフィリピン医療奉仕だ。

1977・78年度に、日本ライオンズ産みの親であるフィリピンへの恩返しとして、第1次医療団が派遣された。当時のフィリピン医療事情は、1ベッド当たりの人口が約520人（日本約80人）、医師1人当たりの人口は6700人（日本700人）と相当にお寒いものだった。

また、同国には全国民をカバーする医療保険制度がない。原則として自由診療制のため医療費が高く、所得の低い地方の一般住民は医者にかかりたくてもかかれない。更に医師が都市に集中し地方には少ないことも、それらの人々が医療を受けられない原因となっている。

そんな中で、毎年実施されている334‐E地区の医療奉仕は、フィリピン政府からも大きな期待が寄せられ、当日はパトカーや白バイの先導で診療場所に直行。一人でも多くの人たちを診療出来るよう配慮されている。

この事業ではまた、診療時に使ったり、受診した人たちに配布する石けんやタオル、眼鏡、歯磨き、シーツなどを地区内全クラブが協力して集めている。医薬品や点眼薬などを加えると、医療奉仕団がフィリピンへ持ち込む物資はダンボール箱約400個にもなる。長く続けてきたことで、最近では県内の学校やホテル、各種団体が協力してくれるようになり、奉仕の輪はライオンズ以外にも広がりを見せている。

医療奉仕当日、物資担当の会員は朝の4時ぐらいから起き出して、車への積み込み作業を開始。診療場所に到着したら、それらを会場内に配置すると共に、フィリピンのライオンズやボランティアと一緒に受診した人たちに配布していく。

ちなみに2006年2月に実施した前回の医療奉仕では、内科、眼科、歯科を合わせ、受診者は1万人を超えた。

ストリートチルドレン援護

2007年のスタディ・ツアーでは、ストリートチルドレンのための援護施設も視察する。

フィリピンでは1970年代後半から80年代半ばにかけて、農村部からマニラ首都圏へ移り住む人が集中。急速な人口流入により失業率が上がり、住宅などの都市環境整備も間に合わなかった。

こうした疑似都市化と言われる現象が、都市の周辺に広がるスラムを生み出し、そして路上で生活する子どもを出現させた。

ストリートチルドレンの多くは栄養失調状態にあり、成長が遅れ、病気に対する抵抗力も弱まっている。また、暴力や犯罪に巻き込まれる危険性も高く、更には自分自身が麻薬や売春などの犯罪に手を染めるケースもある。

スタディ・ツアー一行は、こうしたストリートチルドレンを収容し、援護する施設「ライオンズ・ストリートチルドレン・センター」を訪問する。2002年2月に開所したもので、基礎的な勉強の他、職業訓練なども受けられる。

◆

LCIFスタディ・ツアーではこれまで、インド西部地震の被災地復興状況（2004年）、カンボジアでの教育支援（2005年）、タイにおける視力ファースト事業と、インド洋津波被災地の住宅再建（2006年）を視察してきた。「日本はLCIFに多大な貢献をしているが、どんな事業をやっているのか見えない」。そんな声に応えて、LCIFが主催しているもので、さまざまな交付事業を視察し、現地のライオンズと話すことで、参加者は毎年、大きな収穫を持って帰国している。また、ツアーを通じて日本各地のライオンと親交を深めるのも楽しみの一つ。

今年のツアーは成田、中部、関西の3空港が利用出来る。期間は2月9日からの4泊5日で、10～12日は連休のため比較的参加しやすい旅程となっている。ツアーの基本費用は16万円。詳細は協和海外旅行へ。

第4回LCIFスタディ・ツアー旅程表

2月 9日（金）成田空港 9:30→マニラ13:25（PR-431）
中部空港 9:30→マニラ13:00（PR-437）
関西空港10:00→マニラ13:10（TG-621）
17:00～18:30　セミナー
2月10日（土） 9:00～17:00　交付事業見学
2月11日（日）終日　休養／自由行動
2月12日（月） 9:00～17:00　交付事業見学
2月13日（火）午前　自由行動
マニラ13:30→中部空港18:30（PR-438）
マニラ14:25→関西空港19:00（TG-620）
マニラ14:50→成田空港20:10（PR-432）
※滞在中のスケジュールは一部変更になる場合もあります。

ツアー費用　160,000円（1人／2人1室利用料金）
※任意：1人部屋利用追加料金26,000円／ビジネスクラス追加料金75,000円（成田発着）60,000円（中部発着）55,000円（関西発着）／フィリピンでの寄付2,000円
申し込み締め切り：2006年12月20日（水）

●ツアー企画
ライオンズクラブ国際財団（LCIF）
担当：田辺憲雄（資金開発課課長）

●ツアー取扱
協和海外旅行株式会社
〒113-0033東京都文京区本郷4-5-10　サンファミリー本郷202
TEL：03-3816-7971　FAX：03-3816-7977
E-Mail：kyowa@kyowa-kaigai.jp
担当：野口正二郎（東京関東ライオンズクラブ）

競争時代を迎えたボランティア活動⑪ ライオンズクラブと市民団体の挑戦

法人化について考える（1）

■坂本信雄（京都府・亀岡保津川クラブ）
京都学園大学経営学部事業構想学科教授

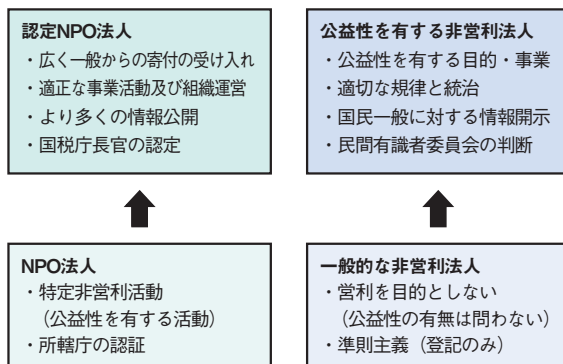
この連載シリーズの多くは他の市民団体、なかんずくNPO法人とライオンズクラブを比較して取り上げてきている。両者の違いがはっきりしているのは、NPO法人が法人格を有しているが、ライオンズクラブは法人格を有していないことだ。もっとも国際協会自体は、クラブの本部があるアメリカ・シカゴのイリノイ州法において「非営利組織」として登録されている。しかしどのような組織体もその国の国内法に依拠するので、日本のクラブは法的地位を持たない任意団体ということになる。法人格が無いまま活動している任意団体は数の上から見れば多いが、ここ数年来の動きを見ると次第に団体の法人化を促すような法的整備が進んでいる。1998年のいわゆるNPO法の制定、2001年の中間法人法の制定、そして昨年には公益法人の見直しによって、これまでよりはるかに簡素な手続きによって法人化が可能になっている。

法人化は書類などを官庁に提出する義務を伴うのでデメリットもあるが、一般的にはメリットが多い。幾つか列挙すると以下のようになる。⑴団体が契約の主体になれる、⑵団体として資産を持てる、⑶資金調達が容易になる、⑷従業員の雇用関係が明確になる、⑸社会的信用が高まる。

実際にライオンズクラブが遭遇するかもしれない（あるいは既にそうしたことを経験したクラブもあるだろう）事例は、行政から何らかの委託事業を引き受ける場合や建物などの資産を保有する場合になろう。事業委託は今後、協働を促進するために奨励されるが、その場合、契約の主体として法人格を有しているかどうかが重要になる。また備品以外の資産保有になると、団体としての登記、そして課税の問題が出てくる。任意団体の下では信頼関係や暗黙の了解をベースに処理していることが多いが、それが崩れてしまうことで問題がむしろ錯綜することがある。法人化されることは、団体の管理・運営などが法的に担保されることなので問題への対

イラスト／藤英毅

応は明確になる。

仮に法人化を目指すとすれば、図に示すように新しい公益法人かNPO法人だろう。法人格を取得するだけであれば、一定の要件を満たした上で登記だけで済む「一般的な非営利法人」が簡単であるが、社会奉仕を掲げるライオンズクラブは「公益性を有する非営利法人」が望ましい。これまで公益法人の設立は官庁による認可であったが、公益性を有する非営利法人は今後、外部有識者による第三者委員会の判断に委ねられる。また、主としてボランティア団体を対象にするNPO法人は、それだけでは税制上の恩恵はほとんど得られないので「認定NPO法人」を目指すことになる。公益社団法人も認定NPO法人も民間非営利団体を対象とする法人制度として一定の類似性を持っているが、そうしたことを踏まえて最終回は法人化する場合にクリアすべき要件などを取り上げてみよう。

認定NPO法人
・広く一般からの寄付の受け入れ
・適正な事業活動及び組織運営
・より多くの情報公開
・国税庁長官の認定

公益性を有する非営利法人
・公益性を有する目的・事業
・適切な規律と統治
・国民一般に対する情報開示
・民間有識者委員会の判断

NPO法人
・特定非営利活動
（公益性を有する活動）
・所轄庁の認証

一般的な非営利法人
・営利を目的としない
（公益性の有無は問わない）
・準則主義（登記のみ）

私の勲章

岡本　浩一(兵庫県・尼崎琴の浦)

尼崎琴の浦ライオンズクラブは1977年からYE派遣事業に力を入れており、毎年、さまざまな高校や施設を支援しています。

さかのぼること10年。この年、1996年は尼崎市尼崎学園(神戸市北区)の園生に、優秀な子がいるとのことで、ホームステイをプレゼントすることになりました。

尼崎学園とは、それぞれの家庭の事情から親元を離れて共同生活している施設で、当時、2歳から17歳までの子どもたちが52人いました。その中から、お姉さん役として子どもたちの面倒をよく見、学年で英語の成績がトップクラスという、当時17歳・県立鈴蘭台高校2年の片山英子さんが、施設第1号のYE派遣生に選ばれました。

その片山さんと、今年の新年例会で10年振りに再会出来、ゲスト・スピーチをして頂きました。その内容をぜひご紹介したいと思います。(会長・歯科医・54歳)

◆

尼崎琴の浦ライオンズクラブの皆様、大変ご無沙汰しております。

今回、こうして皆様にお会いすることが出来、大変うれしく思っております。

私は、尼崎学園卒園後は、姫路工業大学環境人間学部環境人間学科へ進学し、現在は姫路で病院の経理事務の仕事をさせて頂いております。

大学時代は、バイト、大学、家の往復という単調な生活でしたが、たくさんの方に励まされながら、充実した生活を送りました。一人暮らしも始め、恵まれた日々でした。

大学卒業後も無事就職出来、もうすぐ働いて4年を迎え、私も27歳になります。

10年前……私が17歳の時、大きなチャンスが訪れました。それまでの私にとって学園で生活すること＝頑張ることでした。施設に預けられているという現実、これからの将来、どうなるのだろうという漠然とした不安を常に胸に抱きながらの生活は、当時の私には大変つらいものでした。ですから、当然自分のことで精いっぱいで、周りの人の意見を聞き入れる余裕もありませんでした。

自分の中で、こんなに頑張っているのにその頑張りを認めてもらえていないような気がして、普通の家の子がうらやましかったのをよく覚えています。そんな私でしたが、周りの子がうらやむような夢のようなプレゼントを頂きました。そうです、皆様から頂いたアメリカへのホームステイです。その夢への切符は、私の人生の中にいちばん良い影響を与えてくれた出来事でした。

実際のホームステイも一生の宝物でしたが、何よりも今まで必死になって頑張ってきたことに対して、初めて認めてもらえ、ご褒美をもらえたこと、私のことをちゃんと応援してくれる人がいるのだと実感出来たことが、本当にうれしく、私にとっては勲章を頂いたように思っています。

それからの私の生活、気持ちは大きく変わりました。英語が大好きになり、英検2級に合格することで高校卒業後の道が開けました。大学受験では、この英検が加点されたこともあり、合格することが出来たのです。

大学では尊敬出来る先生と出会い、そのご縁で就職することも出来ました。どれ一つを取っても、あのホームステイとつながっているのです。

たまに、もしあのホームステイがなかったら、今頃私はどうなっていたのかなと考えて、ぞっとすることがあります。私は、認めてもらうという心地よさを体験したからこそ、今も頑張り続けることが出来るのです。

この場をお借りして言わせてください。

「一生忘れられないような大きなプレゼントを、そして今もなお、変わらず温かく見守り続けてくださって、本当にありがとうございます。心の底から感謝の気持ちでいっぱいです」

学園の卒園生として、胸を張ってこれからも毎日頑張り続けます。

片山英子（元YE生・27歳）

富士登山に学ぶ

石川　昭徳（愛知県・豊明）

曽我一義334－A地区ガバナーのお誘いにより、富士登山に参加させて頂きました。1984年から、新入社員の教育の一環として、毎年7月末の金・土・日に登っておられ、今年で22回を数えるそうです。以前から交流のある養護施設・和新館の中学生5人と教員2人を含む26人で、山頂目指し出発しました。

7月28日、会社の保養施設「朝霧山荘」をベースキャンプにそれぞれの身支度、そして心構えが説明されました。天気は曇り、間近にあるはずの富士山は何も見えません。どの方向にあるのかさえ全く分かりません。天気予報を確認するも、いい返事は無く、雲の中の登山を覚悟せざるを得ませんでした。

29日3時30分起床。目が覚めて窓から外を見た途端、我が目を疑わんばかり、薄暗い東の空に、大きな星が二つ、その星の真ん中に、富士の稜線がくっきり映っています。心弾む感激の一瞬でした。

早朝、所持品の準備。そして曽我社長から、「ただ今から富士山に登るわけですが、これは遊びではありませんので、気を引き締めて全員登頂、無事下山出来るようにがんばりましょう」と訓示があり、4時30分にバスで出発。5時30分、表富士宮登山道新五合目に到着しました。

ここで体を慣らすため、休憩すること1時間、6時30分登山開始。A班B班に分かれ、先頭と後尾にベテランが陣取り、ゆっくり、ゆっくり、歩が進められました。

「富士登山どっと繰り出す人の列」

早朝、また夜中から登っておられるのでしょうか、ほとんど見渡す限り人の列で埋まっていました。7合目、8合目、この辺りから

徐々に傾斜がきつくなるのを感じながら、激しく変わる風景に癒やされ、また、行き交う人の一言に励まされ、金剛杖のお世話になりながら無心で歩を進めました。

出発前、曽我社長は和新館の生徒に話をなさいました。

「富士登山は過酷なスポーツだ。途中で一人脱落しても誰も助けてはくれない。自分の二本の脚で最後まで登ることが大切だ。登山は忍耐との戦いだ。登ったことの無い人には分からない。根性・約束が試される部分でもある。最後まで登頂出来た暁には、あなたたちが将来、社会人になって世に出た時、この富士登山が必ず役に立つ時が来ると、私は信じています」

途中、この言葉を思い出しました。実は私も北アルプス登山を若い頃に6回、中高年になってからも2回経験しています。が、日本一の富士山はなぜか縁が無く、今回が初めてですので、一歩一歩かみしめて登りました。

9合目を過ぎると、更に傾斜が増し、高山病が容赦なく襲います。途中顔色も青ざめて腰を降ろしている人を何人も見過ごしながら、ここまで来たのだから、何が何でもがんばろうと思った矢先、山の天気は一転してしまいました。ガスが掛かったと思いきや、水滴に変わり、防寒の効果も含めコート姿に変身。山頂での歓迎は、静かな空から降る小粒の雨でした。名物の富士山頂郵便局が、雨の中、とても印象的でした。

30分程して雨も止み、下山の途につきました。朝霧山荘ベースキャンプでは、準備係の人が無事の下山をたたえ揃って出迎えてくれました。そして野外バーベキュー・パーティーでお互いの労をねぎらい、登山の成功の喜

イラスト／小川和政

びを分かち合いました。

登山を通して、曽我社長はすべて物事を起こす場合は、その目的・意義・忍耐力等をしっかり練り上げ、確実に実行に移す力を身を持って教えてくださったと思っております。

これは私たちライオンの行事の中でも共通しています。運営面、あるいは事業面においても、大事な部分と認識し、心していきたいと思います。

「すぐ其処に見えど山小屋遠かりし」

（食品機械・67歳）

私の過ごした30年前

佐々木 忠康（北海道・小樽）

先日、クラブの会報に載せるので、30年前の自分を思い出して何か書いて、と頼まれた。今、私は62歳。そこで30代初め、東京にいた頃から紐解いてみた。

当時、経済誌記者として円熟(?)、花森安治の『暮らしの手帖』経済誌版として複写機の性能はどこの社が……など比較して書いたり、時に日本を牛耳る経済人と対等に渡り合っていた頃である。若かっただけに不遜で生意気なところもあり突っぱって生きていた。

今はもうほとんど他界してしまったが、皆さんもご存じの小佐野賢治氏（元国際興業社長）、小山五郎氏（元三井物産社長）、田実渉氏（元三菱銀行頭取）、神谷正太郎氏（元トヨタ自動車販売社長）に取材で出会い、扇谷正造氏、細川隆元氏、藤原弘達氏の評論家たちと対談を組んだりしていた。

頻繁に大物経済人と会って、時には一緒に銀座に飲みに行き「この青年誰?」とチヤホヤされ悦に入っていた。とりわけ大宅壮一氏の番を会社に命ぜられ、彼をゲストに迎えた後の接待にいつも同行していた。それは銀座のクラブから、はたまた新宿のピンク映画館まで。更には大宅さんの自宅の麻雀にまで付き合わされる。そこには、内弟子の草柳大蔵氏、外弟子の吉行淳之介氏、梶山季之氏がメンツに入っていた。

余談になるが、イーピンが家紋になっていて、必ずドラという変則麻雀を月に3、4回徹夜で明け暮れ、不規則な生活の中に身を委ねてきた。既に私は結婚していたが、家には帰らない日が続き、昔から「記者の嫁にはなるな」を地でいっていた。

ちょうど、この年にあの「ロッキード事件」で田中角栄首相が逮捕され、やがて小佐野賢治国際興業社長も司法の手に落ちるのである。

信じていた小佐野社長の裏面を垣間見た私は、寂寥感にかられた時でもあった。いわゆる一匹狼の私が、社会の変革に押し流されつつも肩ひじを張って仕事をしていたのに、父の病気と、都会に溺れていく自分に嫌気が差して小樽に戻る羽目になるとは想像だにしなかった。1千万人の都会の渦の中で生きていた、鼻っぱしの強いサラリーマン青春時代の自分が今では懐かしい。

（出版業・62歳）

「少年はなぜナイフを握ったか」

土路生 信行（福岡リバティ）

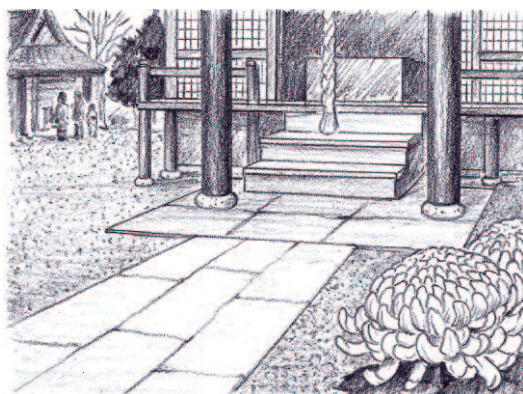
私は53歳、2児の父親です。

今、青少年、若年層の残虐な犯罪が多発し、社会問題となっています。

親の責任、しつけが大きいと痛感しますが、現代社会にも問題があるのではないかと感じています。

10年近く前になりますか、私は、西日本新聞の「少年はなぜナイフを握ったか」という投稿欄に所感を送りました。当時、「酒鬼薔薇事件」が騒がれており、同世代の子どもを持つ親としてとても考えさせられたのです。

その子どもたちも、今では成人しましたが、

現在でもなお起きているこの問題は、他人事ではありません。
　最近の子は、すぐにキレやすい。そこには、家庭環境にも原因があると思いますが、私は、今のテレビ番組の在り方、子どもたちが好んで遊んでいるゲーム、漫画の影響が考えられると思っています。
　テレビには、殺人事件（殴り合い、殺し合い）などの番組が氾濫しています。昔は、ドラマにしてもアニメにしても、感動ものが多かったですし、お笑いも相手を殴る蹴るのうけ（オチ）は少なかったように思います。
　このマイナス番組が、毎日コマーシャルとしてテレビから流れ、それが当たり前になっているのではないでしょうか。そういう番組をまだ成育過程にある子どもたちが見たら、悪い方向に進んでしまうのが自然の成り行きです。
　ゲームも、相手と戦う、殺す、そして死んでもすぐリセットして生き返らせることが出来るのに慣れてしまうと、現実と仮想の区別がつかなくなり、考えられないような事件が起こり得ると思います。
　それなら、見なければ、買わなければ、やらなければと思うのですが、それは実際には不可能です。1人の親がマイナス番組やゲームから子どもを遠ざけたとしても、子どもは必ず周りから吸収してしまうものです。
　私は、視聴率を重視するあまり、本来の人間のあるべき姿、あるべき心が失われた番組制作や、ゲームの内容に疑問を感じています。
　もっと人生のプラスになるような、感動する心、人を思いやる気持ちを育てることが、私たち大人の役目だと思います。

（コンサルタント業・53歳）

ボクの見てきた160カ国

●第11回（ポーランド）

アウシュビッツ絶滅収容所を訪ねて

厚沢弘陳（あつざわひろのぶ）
（東京関東ライオンズクラブ）

戦中派のボクが一度は行ってみたいと思っていた「アウシュビッツ絶滅収容所」に行く機会が、JTB旅物語のツアーによって実現することとなった。

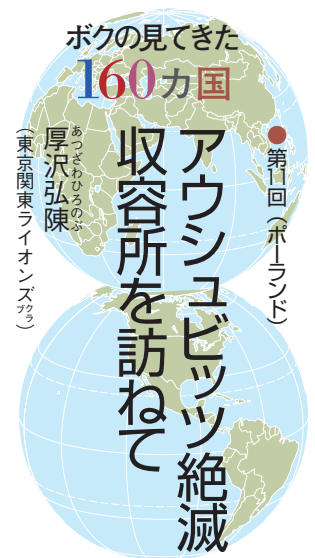
●

アウシュビッツはポーランドのクラクフという街から、車で約1時間ほどの所にある。ここは第二次世界大戦中の1941年に、ナチスドイツにより、ユダヤ人や政治犯などを絶滅する目的で建設された「大量殺人工場」であった。

ツアーではまず、ビルケナウ収容所跡を訪れた。敷地の中には、多くのバラックが今でも残されていた。そのうちの一つに入ると、粗末な三段ベッドが両側に並べられ、中央に小さな暖炉があるだけのものだった。

当時、貨車で何日も掛かって連れてこられたユダヤ人たちは、ナチスの医師による一瞬の判断で、働ける者と、働けない者、つまりやがてガス室に送り込まれて死を迎える女性や子ども、そして老人などに振り分けられた。

一本の鉄路が、ゲートをくぐった先で止まっていた。彼らにとっては、まさにここが、「死の終着駅」となってしまったのだ。

行き止まりの鉄路。ここが死の終着駅（アウシュビッツ「ビルケナウ収容所跡」）

次に見学したのは、そこから少し離れた「アウシュビッツ博物館」だ。レンガ造りの建物で、犠牲になった人々のさまざまな遺品が大きなガラス室の中に展示してあった。

アウシュビッツでは、女性はシラミの伝染防止にシャワーを浴びさせてやる、と称して髪の毛を剃られ、死のガス室へと送り込まれた。その髪の毛が、山のように展示されていた。三つ編みにしてあるのは、おそらく少女のものだったのだろう。それを見ていると、ボクは思わず胸がいっぱいになってしまった。それらの髪の毛で作った織物まであった。目を背けたくなる光景だ。

そして、山のように積まれた眼鏡、義手、義足、カバン、生活用品。彼らが履いていた靴もたくさん展示してあった。飾りのついた高価なハイヒールなどは、ついこの間まで裕福な生活をしていたのだろうと想像されるが、ただユダヤ人というだけで殺されてしまったのだ。

こうして死んでいった人たちは、数百万人とも言われているが、その実数はいまだに分からないそうだ。ナチスの兵士たちにも、愛する妻やかわいい子どもたちがいたはずなのに、どうしてこんなむごい殺し方をしたのだろうか。それが「戦争」というものなのかもしれない。

ボクは収容所を後にしてからも、いつまでも「戦争という悲劇」を考え続けていた。

俳壇

■選者　森　澄雄

【特選】

秋涼し町に紐組む筬の音　（三重県・伊賀上野）豊岡はつ子

（評）三重県伊賀は県北西部の旧国名。上野市は上野盆地の中央に位置し、伝統文化として伊賀組紐で有名。町に組紐を組む筬が秋涼しい音を立てている。

巡航の八百八橋川涼し　（大阪府・堺浜寺）平井真佐雄

（評）江戸時代、江戸は大阪の八百八町に対して八百八橋とうたわれた。大阪の川を船で巡航して、夏も涼しい。

（投稿要領→62ページ）

【入選】▼

天窓に銀河の端のかかりをり　（千葉県・房総勝浦）君塚　一雄
踊り果て闇に消えゆく下駄（はき）の音　（千葉県・大栄）野平婦基子
樽詰の酒に移り香吉野杉　（千葉県・船橋シニア）小嶋　廣次
秋立つ日空の青さを眺めをり　（埼玉県・大宮中央）尾形　康夫
稲妻（郡上八幡）は山城浮かぶ踊かな　（愛知県・南知多）内田　白花
先斗町細き路地裏昼の虫　（兵庫県・神戸シニア）中村麦芽子
秋の雨讃美歌洩るる屍室　（兵庫県・西脇）高瀬　博子
雲の峰日本アルプスより湧きぬ　（大阪夕陽丘）權谷　睦美
目のあたり鳴く蝉じっと見つむる子　（大阪夕陽丘）角野　慶子
峠越えかなかなかなに癒されて　（大阪夕陽丘）中村　豊彦
ひと雨の日傘に過ぐる風は秋　（大阪夕陽丘）田中　一栄
新涼をほしひままなる露天の湯　（大阪府・堺浜寺）宮部志都代
夜座終へし堂十方の虫時雨　（大阪府・堺浜寺）仲西　健豊
風に乗り風を乗りつぎ秋の蝶　（和歌山県・伊都高野山）慈幸　千寿
那智の滝真上横たふ天の川　（和歌山県・新宮）鶴田　徹真

歌壇

■選者　春日真木子

【特選】

幹をかむまだ新しき空蝉のロイドの眼（まなこ）虚空を仰ぐ
（千葉県・館山中央）荻野　貴子

（評）空蝉は、蝉のぬけがら。土中に長くいた幼虫が、地を出て木に止まり、背から割れて脱皮、成虫となる。掲出歌「幹をかむ」は、しっかり幹に爪を立てている様を捉えている。「ロイドの眼」、ロイドはセルロイドの丸い太縁眼鏡か、または喜劇俳優ロイドの眼鏡からの発想か。空蝉の両眼は濡れて光っていたのであろう。作者の飛躍した発想がある。のけ反ったように幹にすがる空蝉の仰ぐのは「虚空」、ここに無常観を加えており、なかなか凝った表現の一首である。

（投稿要領↓62ページ）

【入選】▼

行先を遮らないで蜻蛉らよぶつかる音が心に重い
（北海道・訓子府）吉野　良子

鈴虫をいただいた日はCDを聞かずに寝よう今宵ひと夜は
（栃木県・西那須野）佐藤　嗣人

落雷後ローソク灯る夕暮に妻の奏でる「雨だれ」を聞く
（千葉県・木更津アクア）山口　庸一

父祖の墓黄金の波の中にあり厳として田を守る形に
（千葉県・流山）皆川　春安

送り火の点火に合わせ介助者は車椅子の向きそっと変えおり
（愛知県・西尾東）坂部喜三江

大相撲二階席から声嗄らす大きな力士が小さく見ゆる
（岐阜県・大垣水都）小玉　啓一

峠路に七草摘みしは幻に個性それぞれの家が犇めく
（三重県・四日市北）横井　真澄

電子メールの写真に赤き凌霄花送り来る甥戦争を知らず
（石川県・羽咋）竹津　弘子

取材するカメラにか細き手を伸べて何かをねだる難民の子は
（山口県・下関ウエスト）登根　邦彦

商いの歌を詠めとぞあるときに会いし近藤芳美言いにき
（大分県・中津沖代）松本　達雄

柳壇

■選者 大木俊秀

【入選】▼

ベテランの苦言を明日の糧にする (青森県・五所川原) 坂本　憲昭

赤提灯で洗えるほどの疵でよし (青森県・八戸中央) 大久保健峰

年甲斐もないと言われる歳となり (岩手県・藤沢岩手) 及川　平一

人間を隅で支える喫煙所 (新潟県・五泉) 金子　昭三

家計簿の赤字ペットのエサで占め (千葉県・船橋シニア) 灘山　徳治

どうやって冷やすか食うか大西瓜 (群馬県・高崎) 江原　正弘

世渡りのうまい女の無言劇 (静岡県・大仁) 山本　順平

靖国より大問題が多々あろう (兵庫県・宝塚グリーン) 中島　弘風

切り札は隠し静かな咳ばらい (京都鴨川) 栩谷　四朗

肥満体握った箸を離さない (鳥取県・倉吉打吹) 福井　耕児

扇風機ひる寝終りと首を振る (鳥取県・倉吉打吹) 森脇　涼生

温泉の効能少し盛り過ぎる (島根県・松江湖城) 荒木八洲雄

生前の戒名貰い未だ生きる (島根県・松江湖城) 長谷川　孝

川底の石も背いた過去をもつ (宮崎橘) 黒木せつよ

分けるものなくて兄弟仲が良い (佐賀県・神埼) 園田　祐

【特選】

アバウトに生きてストレス溜め込まぬ (青森県・弘前中央) 高橋　敬

(評) よく、「ストレスが溜まっちゃってね」などと軽く言うけれど、精神緊張・心労・苦痛などがもたらす精神や肉体の負担は、はかりしれないものがある。あれもこれもパーフェクトにやろうとするからいけない。適当に、ほどほどに、アバウトに行きましょうや。

孫一人祖父母四人の不均衡 (千葉県・房総勝浦) 君塚　一雄

(評) 言われてみると、これでは確かに均衡がとれていない。婿側にも父と母がいる。嫁側にも両親がいる。子ども一人では一対四の、孫と祖父母の比率となる。もし婿と嫁が一人っ子同士の結婚だったとしたら、もっともっと頑張ってもらわねば、国の一大事ともなる。

〈選者から一言〉

五・七・五の七のところが八になっているいわゆる「中八」の字余りの句が、毎回たくさん寄せられます。ぜひ、定型の「中七」で仕立ててください。内容が良くてもリズムの悪い句は絶対に採用とはならないので、お気をつけください。

(投稿要領→62ページ)

MY BEST SHOT

選：河相正名（日本写真家協会会員）

田尾忠士
愛媛県新居浜ひうち
［ヒマワリ］

●選評

　夏を印象づけるヒマワリ。青空をバックに黄色を画面いっぱいに散りばめ、夏本番を見事に表現している。近景がより大きく、遠景がより小さくなるように、ワイドアングルレンズのパースペクティブ（遠近感）を巧みに使い、画面に奥行きを持たせている。空の青と花の黄のコントラストが素晴らしい。少しアンダー気味の露出も成功している。花の配置も良い。夏らしい1枚となった。題名に関しては、もう少し物語性がほしい気がする。

木村文丸
青森県
弘前
［古木］

徳田修　大阪難波
［伊豆 堂ケ島の夕日］

高山勇　和歌山県富田川
［波動］

菊野善之助　愛媛県松山ホスト
［今日は］

横内孟　山梨県南アルプス［ゆりの花］
畔柳東一　愛知県岡崎竜城［祭り本番］
屋山剛　愛知県幸田［秋色の世界遺産］
安藤正一　愛知県豊田［うらみち］
岩佐清　岐阜県高山［どしゃ降り］
松下正治　大阪梅田新道［月下美人］
吉野耕司　京都府宮津［山は秋の佇まい］
重藤一美　広島県甲山［勇姿初陣］
山野智要之亮　広島あさひ［清盛像と夕日］
上野春夫　広島県三原［鬼にびっくり］

全作品は国際協会公式ウェブサイトでご覧頂けます。　http://www.lionsclubs.org/JA/TheLion/MBS/index.html

LIONS GALLERY

「バリ島の女性」パステル F12号

私は広告美術業も兼ねているので、筆を使った仕事全般を手掛けています。先日の個展には、抽象画や風景画、裸婦、イラストレーションの他、揮毫も出展しました。新聞評には「人生をこんなにまで筆で遊ぶ人」と書かれてしまいました。

私は、とりわけ裸婦に魅せられ、人体デッサン展で知られる「七廉会」に所属しています。あらゆる有名な画家がヌードを描いたように、男性から見ると、女性ほど美しいものはありません。今まで、１００枚以上描き続けていますが、絶えず消化不良です。女体は描くほどに魅力が増し、いくら描いても描ききれないのです。この絵はバリ島に行った時に描きました。強烈に感動してパステルを使って2時間、息をするのももどかしく描き急いだものです。

（いのうえ　まこと・69歳）

井上誠
兵庫県
神戸舞子ライオンズクラブ
画家・書家

クラブ会員刊行物

●山内一豊公と彦八家

乱世を生き抜いた一豊公と彦八の歴史の旅

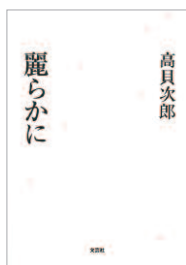
著者／中村好孝（静岡県・掛川ライオンズクラブ／TEL 0537・24・3503）

A5判　本文50ページ
500円

NHK大河ドラマ「功名が辻」の主人公・掛川城主山内一豊と、著者の先祖・中村彦八が親しく交友していたことから、山内家と中村家のつながりを当時の資料を交えて解説している。

●麗らかに

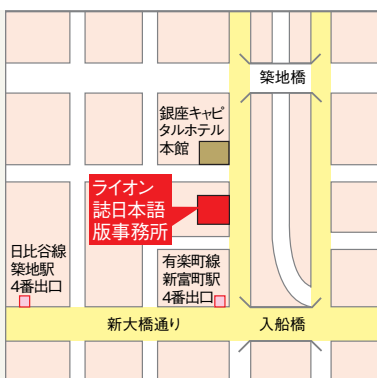
著者／高貝次郎（ライオン鈴木次郎／秋田県・中仙ライオンズクラブ）発行／㈱文芸社（TEL 03・5369・2299）

麗らかに　高貝次郎

四六判　本文119ページ
1,200円

認知症の妻を在宅介護する日々を詠んだ歌集。11年前からの約260首を物語風に収めた。さまざまな困難に直面した老々介護から、「麗らか」な心境に至ったまでの軌跡が描かれている。

➡ライオン誌事務所来訪者芳名録

9・6　Malaysia Penang Host　Jeffrey Quah
9・7　北海道旭川平和　山田　稔
9・19　島根県松江葵　柳浦　信夫
9・29　東京町田クレイン　金子　安男

築地橋
銀座キャピタルホテル本館
ライオン誌日本語版事務所
日比谷線築地駅4番出口
有楽町線新富町駅4番出口
新大橋通り
入船橋

ライオン誌日本語版事務所アクセス
東京メトロ日比谷線築地駅4番出口
または有楽町線新富町駅4番出口

ライオン誌投稿要領

▼応募資格に特に記載のない場合は、ライオンズ、ライオネス、レオクラブ及びその会員と家族。
▼締切の記入のないコラムは随時受付。誌面の都合で編集したり、掲載出来ない場合があります。原則として原稿の返却はいたしません。
▼Eメール投稿は、文字原稿及び写真データ（長辺1,600ピクセル程度／JPEG最高画質）。
▼いずれも住所、氏名、クラブ名を明記。

■「こころのチキンスープ・ライオンズ編」26～27ページ
●ライオンズにまつわる感動的なエピソードの概略、あるいは1,200～2,000字程度の原稿。ストーリーは本誌ライターが書き下ろします。

■「サービス・アクティビティ」28～29ページ
●活動日、場所、100文字程度の説明文を付記。写真はプリント（サービス判くらい）及びデータで、動きのあるもの、内容が一目で分かるもの。
●ServannAの「ライオン誌投稿」欄もご利用頂けます。

■「クラブ・リポート」30～34ページ
●アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に800字程度で。新聞記事は新聞名、掲載日を付記。関連写真があれば添付。

■「獅子吼」51～55ページ
●会員及びその家族によるエッセー、提言など。1,600字程度。職種、年齢を明記。
●題字はハガキ程度の大きさ。

■「俳壇」「歌壇」「柳壇」57～59ページ
●一人ハガキ1枚に3句／首まで。締切：毎月15日。

■「MY BEST SHOT」60ページ
●会員及びその家族でアマチュア。
●応募作品：題材は自由。プリント（サービス判～キャビネ判ぐらい）、スライド（35ミリ以上）、またはデータ（JPEG最高画質）。1人5点まで。
●プリントは写真の裏に紙を貼り、スライドには必ずマウントをつけ、データはメールの添付書類で本文に、氏名、クラブ名、年齢、題名、撮影場所、撮影年月日、住所、電話番号を明記。返却希望の場合は、住所、氏名を記入した返信用封筒に切手を貼り同封。締切：毎月15日。

■「ライオンズ・ギャラリー」61ページ
●会員及びその家族。プロ、アマ不問。
●応募作品：絵画、版画、工芸／題材は自由。作品のスライド・フィルムか、カラー・プリント（キャビネ判）。氏名、クラブ名、年齢、職種、作品のサイズ、題名を明記し、作品に関するエッセー、自評など（400字程度）、顔写真を添付。

■「リーダース・プラザ」62～63ページ
●クラブ会員刊行物：クラブ並びに会員が刊行された出版物を1部送付。
●伝言板：読者間の情報交換に。
●読者から：本誌への意見、感想など。

送り先：〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　ライオン誌日本語版事務所　各コラムあて
ファクス：03-3546-2630
Eメール：edit@thelion.jp

読者から

▼本誌へのご意見・ご感想をお寄せください。　編集部

若者との心の通い合いに感動

●何気なく、9月号「THEME／アクティビティI」を読み始めたら、だんだん内容に引き込まれ、最後には目頭を熱くさせられました。一人の若者との出会いから大きな感動を生んだコンサートを開催した、福岡中央ライオンズクラブのアクティビティに感銘しました。「とかく最近の若者は……」と嘆く昨今ですが、そのような若者を育てた我々世代にも大きな責任があります。若者にとやかく言う前に、このような心の通ったアクティビティを目指さねばと感じました。

広島県・東広島ウエスト●川本広夫

「熱海芸者」と「丸山芸者」

●最近『ライオン』誌が充実していて、昔と比べとても行き届いた冊子になっていると感じます。特に9月号「ふるさと探訪／温泉街に華を添える熱海芸者の舞姿」は目を引きました。長崎も昔から丸山芸者が全国で知られていましたので、懐かしく拝見させて頂きました。

長崎県・諫早●大島好秋

青少年アクティビティに共感

●9月号「ふるさと探訪」の記事を楽しく拝見しました。また熱海ライオンズクラブが「青少年健全育成」として、野球交換試合やYEに力を入れていることを知り、立派な活動を実施されているなと思いました。私ども鹿児島南洲ライオンズクラブも、青少年アクティビティに力を入れており、南洲基地の清掃を毎月実施しています。共に青少年育成に努力致しましょう！

鹿児島南洲●塚田政宣

最後のごあいさつ

●たびたび「クロスワード」「読者プレゼント」に応募させて頂き、毎月『ライオン』誌が届くのを夫と2人で心待ちにしていました。が、8月に夫が急死し、聞き慣れた332-B地区第1リジョン第2ゾーンともお別れです。夫は長い船員生活を退職し、葛巻ライオンズクラブに入会出来たことをいちばんの誇りにしていました。「どんなに地位や名誉、財産があっても、ボランティア活動をしない人は立派とは認められない」という夫で、私もその影響を受け、共に歩んで来たことを思い出します。これからも、ライオンズクラブが未来永劫輝き続けることを願っています。短い間でしたが、ありがとうございました。

岩手県・葛巻（家族）●高宮光子

便利です、ウェブマガジン

●中島洋吉ライオン誌日本語版委員の「編集室／『ライオン』誌ウェブマガジン発行に寄せて」を読んで、早速、インターネットを開いて「お気に入り」に登録しました。最新の情報もあり、統計や歴史資料も整っています。会員研修などの資料としてスクリーンで見ることも出来て便利です。当クラブ及び周囲のクラブにもPRしたいと思っています。

岡山県・西大寺●小林裕

時代の変遷

●私はライオンズ会員になってから40年になります。その間のほとんどを、PR・会報編集委員会に属して努めてきました。編集で行き詰まった時、いつも『ライオン』誌にヒントを得て継続発行することが出来ました。近年、当クラブでも会員の減少に伴い、PR会報予算が減額となり、新しいPRの展開に移行しつつあります。クラブのこれまでの歴史を顧みながら、時代の変遷に驚愕するばかりです。

愛知県・一宮サウス●豊田修次

在籍50年を目標に

●小生、ライオンズに入会して今年4月で46年となりました。今後も在籍50年を目標に頑張る覚悟です。毎号『ライオン』誌は隅から隅まで精読しています。入会以来、既に550冊を超え、押し入れの床が抜けそうです。

宮崎オーシャン●林英男

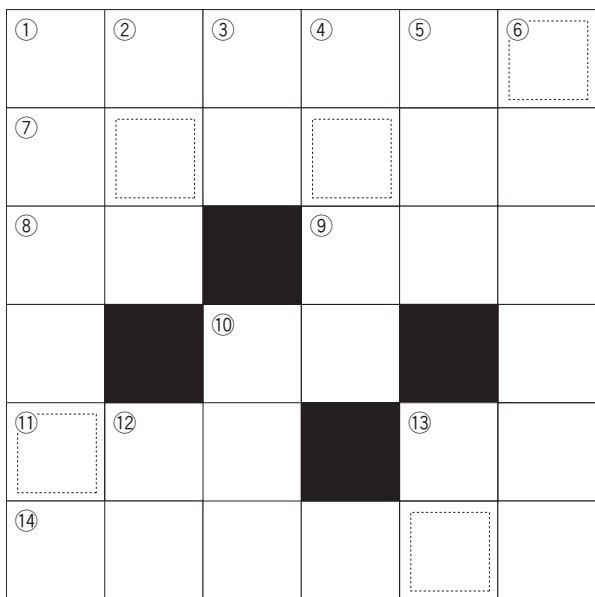
酒の肴に『ライオン』誌

●『ライオン』誌は毎月、日本はもとより海外の情報が分かりやすく載っているので勉強が出来、地元の会合や友人らとの酒盛りには欠かすことの出来ない情報源になっております。これから先もずっと続けてほしいと思います。この大変な資材・編集に携わったライオンズ・メンバーに感謝しております。

茨城三和●染谷富重

クロスワードパズル

点線に入る文字をヒントを基に並べ換えてください。正解者の中から10人の方に記念品を差し上げます。ハガキに答えと氏名、クラブ名、住所、電話番号、本誌の感想を書いてご応募ください（あて先は62ページ）。締切は2006年11月20日。

①	②	③	④	⑤	⑥
⑦					
⑧		■	⑨		
	■	⑩		■	
⑪	⑫		■	⑬	
⑭					

解答 □□□□□　ヒント：健やかな成長を願います。

↓タテのカギ

① 天皇がその年とれた穀物を天地の神にささげる祭儀。「勤労感謝の日」の由来。
② 自らその乗っている艦船を沈めること。
③ 湯などから立ちのぼる水蒸気のこと。
④ ベートーベンの交響曲第五番。
⑤ 馬肉の刺身。
⑥ 伴奏音楽のリズムに合せ、ボールやリボン、棍棒などを使って行う舞踊体操。
⑩ 芸術、美術。
⑬ 本因坊や林などの家元があります。

←ヨコのカギ

① 皇居の正門付近にある橋の通称。
⑦ なじみでなく初めての客。
⑧ インドの平焼きパン。
⑨ 年齢や地位などが自分より低いこと。
⑩ 相手を慈しむ心。
⑪ ウイスキーやジンに、レモンなどを入れて酸味をもたせたカクテル。
⑫ 腕が体から分かれ出るあたり。
⑬ 岩石の多い、海や湖などの波打ち際。
⑭ 互いにものの考えや気質などが一致して、気が合うこと。

■前回の答え

①タ	②カ	③マ	④ツ	ヅ	⑤カ
⑥イ	イ	ナ	リ	■	ー
⑦イ	ブ	■	⑧ワ	⑨ダ	チ
⑩ク	ン	シ	■	⑪コ	エ
⑫ノ	シ	■	⑬サ	ク	イ
⑭ヒ	ヨ	ウ	ガ	■	ス

答えは「サンマ」

EDITOR'S ROOM

ウェブ・マガジン
www.thelion-mag.jp

『ライオン』誌ウェブマガジンでは、国内のライオンズ・ニュースを集めた「**ヘッドライン**」や国際的な情報を伝える「**国際理事メッセージ**」、各地区ガバナーの方針やキャビネット運営の特色、スタッフの横顔などを紹介する「**キャビネット訪問**」を始めとする記事の他、最新の会員数集計や日本ライオンズの歴史などの資料も掲載しています。

11月は、同月3日～6日にマレーシア・ペナンで開催される**OSEALフォーラム**の模様を現地取材し、参加者の声や写真を中心にリアルタイムでリポート。

「**インタビュー**」では、全日本8複合地区が推す2007～09年国際理事候補者・後藤隆一元地区ガバナー、重松良次元協議会議長に抱負を伺います。

「**ボランティア・ネットワーク**」は、スポーツを通じて知的障害がある人たちのリハビリ促進と、社会参加を応援するスペシャルオリンピックス(SO)日本を取材します。

読者プレゼント

■酢漬けらっきょうを10人の読者に

「ふるさと探訪」に登場した鳥取砂丘ライオンズクラブから、JAいなばの酢漬けらっきょうが10人の読者にプレゼントされます。「畑の薬」とも呼ばれ、江戸時代から漢方薬として用いられて来た鳥取のらっきょう。らっきょうに含まれる硫化アリルが血液をサラサラにして、血栓を取り除いたり、ビタミンB1の吸収を助けたり。健康維持や疲労回復に優れた効果を発揮します。酢漬けらっきょうの独特の酸っぱさと風味は食欲を増進。カレーの付け合わせはもちろん、そのまま食べても、またマリネでタマネギの変わりに、刻んでタルタルソースや酢の物に入れたりなど、工夫次第でさまざまにお楽しみ頂けます。

■広島菜漬を5人の読者に

「日本の風景」で紹介した広島県庄原市の特産品、広島菜漬（JA庄原）を5人の読者にプレゼントします。

信州の野沢菜漬、九州の高菜漬と並び、日本三大菜漬にも数えられている広島菜漬。JA庄原の広島菜漬は低塩で調味バランスに優れ、またその色の良さや光沢などが評価され、2005年度加工食品品評会で農林水産大臣賞を受賞した一品です。今年収穫した菜を漬け込んだ、新ものをお届けします。ピリッとした辛みのある広島菜漬を酒の肴に、白いご飯にまたお茶漬けにとお好みでお楽しみください。

プレゼント応募要項

はがきに郵便番号、住所、氏名、電話番号、クラブ名と「らっきょう」「広島菜漬」とご希望の品を明記し、下記のあて先へ。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は11月末日。応募多数の場合は抽選となります。当選のお知らせはプレゼントの発送をもって代えさせて頂きます。

〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 ライオン誌事務所

ウェブサイトからの応募
www.thelion-mag.jp/modules/form1

次号予告

THEME I
ペナン・フォーラム
11月3～6日、マレーシア・ペナンで開催される第45回東洋・東南アジア・ライオンズ・フォーラムをリポート。

THEME II
ライオンズクラブ統計
2005・06年度ライオンズクラブの世界の国別クラブ数、会員数。東洋・東南アジア及び主要10カ国の情勢。日本ライオンズの年度内会員数の推移、アクティビティの地区別項目別比較などを表とグラフで示す。

ROAR・ローア
――まるごと337複合地区

12月号は337複合地区特集。「トピックス」は福岡県・久留米、大分中央、宮崎はまゆう、佐賀西、熊本県・免田、沖縄県・宮古の各クラブ。「ふるさと探訪」は長崎県対馬市を訪ねる。対馬若田地区で採掘される石から生まれる若田硯。古くは平安時代に紫式部が使ったとも言われ、今も多くの書家に愛用される日本を代表する硯だ。県の伝統的工芸品にも指定されている若田硯の製作行程、特徴などを紹介する。また、韓国までわずか50キロに位置する国境の島・対馬には、大陸との交流と自然環境から生まれた独特の風景が点在する。

編集室

ライオン誌日本語版事務所職員の紹介

ライオン誌日本語版委員に就任以来、何かにつけ支えられている事務所のスタッフに心から感謝しています。今回は、そんな職員たちを身近に感じて頂こうと、紹介させて頂きます。

●鈴木秀晃所長……勤続27年のベテラン。表紙撮影を始め、ほぼ毎月取材をこなしています。職員全員が編集も業務も把握し合理化を求め、円滑に仕事が進められるよう努めています。パソコンやインターネットにも詳しく、多岐にわたり物知り。

●市川春江課長……経理の仕事を一手に引き受ける、事務所いちばんのベテラン。慎重で着実な性格は経理担当に打って付け。真面目でやさしく、委員会の都度、いつも笑顔で迎えられあいさつを受けると、長い道中の疲れも吹っ飛んでしまいます。

●河村智子……編集業務をまとめる立て役者。取材も多く語学にも優れ、海外出張もスムーズにこなします。仕事は常にテキパキと早く、決断力がありアクティブで前向き。誌面刷新のアイデアも豊富です。

●亀田友理……「獅子吼」「国際理事だより」などを担当し、広告関係の仕事では代理店との連絡窓口になっています。常に周りの空気を読み気遣うことが出来、面倒見が良い。最近では近場の取材に同行し、新たな経験を積んでいます。

●吉田さやか……「クラブ・リポート」「編集室」などを担当し、委員会や監査関係の窓口となり、頒布品の受注・発送も行っています。趣味は整理整頓で、お酒に強く、好物は芋焼酎。

●柳瀬祐子……途中3年のブランクがあるものの、勤務年数が長くライオンズクラブに関して幅広い知識があります。また語学に優れ、翻訳もこなします。サバンナでは導入地区との連絡窓口になっています。パン教室やスケート教室に通う行動派。

●大野哲平……勤続1年半ですが、入社前の編集経験を生かしアイデアも豊富です。基本的には物静かでマイペースなようですが、仕事に対して前向きで常によい文章が書けるように努力しています。

ライオン誌
日本語版委員
◉
笹本瞭

Official publication of Lions Clubs International.

Published by authority of the Board of Directors in 21 languages – English, Spanish, Japanese, French, Swedish, Italian, German, Finnish, Korean, Portuguese, Dutch, Danish, Chinese, Norwegian, Icelandic, Turkish, Greek, Hindi, Polish, Indnesian and Thai.

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオン誌日本語版委員会
国際理事　伏見龍・山田實紘・谷野徹
委員長　砂田繁雄(334)
編集長　菊池清二(332)
委　員　中島洋吉(330)・古谷野環(331)
笹本瞭(333)・松田毅(335)
尾﨑明雄(336)・井村一男(337)

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571(代)　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website:www.thelion-mag.jp

第90回国際大会はライオニズム発祥の地シカゴで

ライオンズクラブは1917年、アメリカ·イリノイ州シカゴに誕生した。創設者メルビン·ジョーンズの夢の実現である。

シカゴでは当時、共に昼食をとりながら情報交換をする会がたくさんあった。ジョーンズが所属する「ビジネス·サークル」も、その一つだった。が、彼は次第に、単なる社交と職業上の利益を目的とした会に満足出来なくなっていく。「意欲、知力、野心によって成功している会員たちの能力を地域社会向上に活用させる、全米的な組織が作れないだろうか」。ジョーンズはアメリカ国内の類似のクラブに呼び掛けた。

ライオンズのマザークラブ—シカゴ·セントラル·ライオンズクラブの母体となったビジネス·サークルの面々(中央がメルビン·ジョーンズ)。シカゴ博物館前で

1917年6月7日、これに応じたクラブの代表20人がシカゴのラサールホテルに集まった。組織の名称は、ここに参加した一つのクラブの名前をとって「Association of Lions Clubs」とすることが決定。

ライオンズクラブの誕生である。

●**シカゴ国際大会主要日程**

2007年7月3日(火曜日) 開会式
2007年7月4日(水曜日) インターナショナル·パレード
2007年7月5日(木曜日) 第2本会議
2007年7月6日(金曜日) 投票/閉会式

※国際大会参加に関する詳細は、各複合地区国際大会委員会へご照会ください